

和仏法律学校講義録

山田, 三良 / 松岡, 義正 / 岡, 實 / 内田, 嘉吉

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-24

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

56

(発行年 / Year)

1902-10-30

（明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可）
（十五年三月三日發行明治三十五年十月三十日發行）

三十五年度 第三學年



和佛法律學校講義錄

第四拾貳號

和佛法律學校發行

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

第三學年第二十四號目次

商法海商(頁二九二)

法學士 內田 嘉吉

破産法(頁三三八)

法學士 松岡 義正

行政法(頁五一五)

法學士 岡 實

表紙及七目次 十四頁

國際私法(頁一七三)

法學博士 山田 三良

雜報

○先取特權ノ物上代位ノ效力○戶主ノ死亡ニ因ル家督相續ノ舊慣
○假差押申請ノ要件

090
1902
3-124

上ノ義務ヲ生スルモノニ非サルカ故ニ船長ニ於テ船荷證券ヲ交付スルモ實際運送品ヲ受取ラサルトキハ其事實ヲ證明シテ引渡ヲ拒ムコトヲ得ヘシ船長カ所持人ニ對シ積荷引渡ノ義務ヲ負フハ其積荷ヲ受取リタル事實ニ基因スルモノナレハナリ英國ノ判決例ニ依レハ船長ハ善意且有償ノ船荷證券ヲ所持スル者ニ對シテハ縱令積荷ヲ受取ラスト雖モ反對ノ證據ヲ舉グルコトヲ得サルモノトシ唯船長カ荷送人等ノ詐偽ニ因リテ船荷證券ヲ交付シタルコトヲ證明スルトキハ其責任ヲ免ルルコトヲ得ヘシト定ム然レトモ歐洲大陸ノ法律ニ於テハ船長ノ船荷證券ニ對スル責任ハ運送品ヲ受取リタル事實ニ基キ發生スルコトヲ認メ居レリ然レトモ船長カ運送品ヲ受取リタル上ハ安全ニ運送シテ荷受人ニ引渡スヘキ義務ヲ負フモノトス此義務ハ法律ノ規定若クハ當事者ノ合意アルニ非サレハ之ヲ免ルルコトヲ得サルモノナリ即チ船長ハ船荷證券ニ對シテ全然責任ヲ負フコトヲ原則トス

第三款 船荷證券ニ依ル所有權ノ移轉

第三學年第二十四號目次

商法海商(三九四)

法學士 內田嘉吉

破産法(三三三)

法學士 松岡義正

行政法(五二一)

法學士 岡實

國際私法(一九七)

法學博士 山田三良

雜報

○先取特權ノ物上代位ノ效力ノ自主ノ死亡ニ因ル家督相続ノ售價
○假差押申請ノ要件

090
1902
3-1-24

上ノ義務ヲ生スルモノニ非サルカ故ニ船長ニ於テ船荷證券ヲ交付スルモ實際運送品ヲ受取ラサルトキハ其事實ヲ證明シテ引渡ヲ拒ムコトヲ得ヘシ船長カ所持人ニ對シ積荷引渡ノ義務ヲ負フハ其積荷ヲ受取リタル事實ニ基因スルモノナレハナリ英國ノ判決例ニ依レハ船長ハ善意且有價ノ船荷證券ヲ所持スル者ニ對シテハ縱令積荷ヲ受取ラスト雖モ反對ノ證據ヲ舉グルコトヲ得サルモノトシ唯船長カ荷送人等ノ詐偽ニ因リテ船荷證券ヲ交付シタルコトヲ證明スルトキハ其責任ヲ免ルルコトヲ得ヘシト定ム然レトモ歐洲大陸ノ法律ニ於テハ船長ノ船荷證券ニ對スル責任ハ運送品ヲ受取リタル事實ニ基キ發生スルコトヲ認メ居レリ然レトモ船長カ運送品ヲ受取リタル上ハ安全ニ運送シテ荷受人ニ引渡スヘキ義務ヲ負フモノトス此義務ハ法律ノ規定若クハ當事者ノ合意アルニ非ツレハ之ヲ免ルルコトヲ得サルモノナリ即チ船長ハ船荷證券ニ對シテ全然責任ヲ負フコトヲ原則トス

第三款 船荷證券ニ依ル所有權ノ移轉

商業上荷物ノ讓渡ヲ便利ナラシムル爲メ證券ヲ以テ現物ニ換ヘ讓渡ヲ爲スコトハ一ニシテ足ラス法律ニ於テモ其必要ヲ認メ證券ノ讓渡ヲ以テ現物ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ有セシム船荷證券ハ即チ其一例ナリ我商法第六百二十九條及ヒ第三百三十五條ニ之カ規定ヲ設ケタリ若シ此方法ヲ採ラストモトキハ運送中ニ在ル荷物ハ決シテ讓渡ヲ爲ス能ハス法律ニ於テ其效力ヲ認メサルニ於テハ商業取引ノ不便ハ決シテ尠少ナラサルヘシ

前ニ述ヘタル如ク船荷證券ハ運送品ヲ受取リタルコトヲ證明シ且之ト引換ニ運送品ヲ引渡スヘキ義務ヲ有スルコトヲ認ムルモノナルカ故ニ船荷證券ヲ所持スル者ハ船長ニ對シ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ヘシ法律上船荷證券ヲ讓渡シタルトキハ積荷其物ノ權利ヲ移轉シタルモノト認ムルニ在リ船荷證券ニ依リテ運送中ニ在ル物品ノ讓渡ヲ爲スニ付テハ法理上何故ニ船荷證券ノ移轉ニ物件讓渡ト同一ノ效力ヲ有セシムルヤノ點ハ學者間ニ議論ノ分歧スル所ナリ或人ハ船荷證券ハ運送中ノ物件ヲ表示スルモノナリト云ヒ或人ハ荷送人ハ荷受人ノ事務管理人ナルカ故ニ其荷受人カ證券ヲ引渡ストキハ所有權移

轉ノ效力ヲ生スルモノナリト云ヒ又或人ハ船長ハ荷受人ノ事務管理人トシテ占有ヲ爲スモノニシテ船荷證券ヲ取得スル者ハ其法律上ノ占有ヲ爲スカ故ナリトノ說ヲ採ル者アリ我商法ノ規定ニ依リテ船荷證券ニ依ル所有權移轉ノ效力ヲ考フルニ船長カ運送品ヲ積積シタルトキハ事實上其占有ヲ爲スモノナリ然レトモ其占有ハ固ヨリ自己ノ爲メニスルニ非スシテ船荷證券カ備船者又ハ荷送人ノ手許ニ在ル間ハ其者ノ爲メニ占有シ若シ船荷證券カ備船者又ハ荷送人ノ手ヨリ第三者ノ手ニ移轉シタルトキハ船長ハ其讓受人ノ爲メニ保管スルモノナリ故ニ船荷證券ヲ呈出シテ運送品ノ引渡ヲ請求スル者ニ對シテハ船長ハ之カ引渡ヲ拒ムコトヲ得ス船荷證券ノ移轉ハ備船者又ハ荷送人ヨリ荷受人若クハ船荷證券ノ讓渡人ヨリ讓受人ニ船長ニ對シテ有スル運送品ノ引渡ヲ請求スル權利ヲ移轉スルモノナリ然レトモ運送品ヲ請求スル權利ヲ移轉スルモ其運送品ノ所有權カ實際前所持人ヨリ後ノ所持人ニ移リシヤ否ヤハ船荷證券ヲ移轉シタル法律關係ノ如何ニ依リテ決定セラルヘカラス例ヘハ荷受人ノ代理人カ運送品ヲ賣捌ク爲メ委任ヲ受ケ船荷證券ニ其讓受人トシテ記名セラレ

之ヲ所持スルトキハ船長ニ對シテ運送品引渡ノ請求權ヲ有スルハ明カナリ然レトモ運送品ノ所有權ハ其委任ヲ受ケタル代理人ニ移ラサルカ如キ類ナリ

第四款 船荷證券ニ對スル船長ノ權利義務

船長ハ船荷證券ニ記載スル運送品ヲ其所持人ニ引渡スヘキ義務ヲ有スルモノナリ尤モ前章ニ於テ述ヘタル如ク船長カ運送品ヲ引渡スニ付テハ證券ノ定ムル所ニ從ヒ運送貨附隨ノ費用立替金等ヲ請求スル權利アリ若シ運送品ノ引渡ヲ請求スル者カ此等ノ金額ヲ支拂ハサルトキハ運送品ヲ差押ヘ置クコトヲ得ヘシ船長ハ船荷證券ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡ス義務ナキヲ原則トス若シ證券ト引換ニ運送品ヲ引渡ストキハ船荷證券ニ運送品領收ノコトヲ記載セシムルコトヲ得ヘシ又船荷證券ハ或場合ニハ數通ヲ交付スルコトアルカ故ニ船長ハ其發行シタル總テノ通數ノ證券ヲ受取ルニ非サレハ引渡ヲ爲スノ義務ナシトス然レトモ我商法ハ陸揚港ニ於テ引渡ヲ爲ス場合ト陸揚港外ニ於テ引渡ヲ爲ス場合トヲ區別シ陸揚港ニ於テハ一通ノ船荷證券ニ對シテモ運送品ヲ

引渡スヘキ義務アルモ陸揚港ノ外ニテハ總テノ船荷證券ヲ返還セシムルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得サルモノトセリ陸揚港ニ付テ特例ヲ設ケタルハ陸揚港ハ初ヨリ運送品ヲ引渡ス處トシテ指定セルヲ以テ其指定場所ニ於テ請求ヲ爲スニ總テノ證券ヲ返還スルニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルヲ得ストスレハ荷受人ノ不便ハ少カラサルヘケレハナリ若シ船長カ發行シタル船荷證券カ二人以上ノ手ニ渡リ運送品ノ引渡ヲ請求セラルルトキ船長ハ自ラ何レカ其正當ノ所持人ナルカヲ決定スルノ義務ナキモノナリ其爭ハ請求者ノ爲ス所ニ任セ運滞ナク運送品ヲ供託シ其趣ヲ各所持人ニ通知スレハ足レリトス若シ船長カ其手續ニ依ラス運送品ヲ何レカ一方ニ引渡シタルトキハ其相手方カ正當ノ權利者ナルニ於テハ之ニ對シテ責任ヲ有スルコトヲ免レス二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ船荷證券ノ一通ニ對シテ運送品ヲ引渡シタルトキハ他人ノ手ニ在ル船荷證券ハ效力ヲ失フモノトス若シ船長カ未ダ運送品ヲ引渡ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發シ若クハ引渡シタル證券ヲ所持スル者カ他ノ所持人ニ先チテ權利ヲ有スルモノナリ

第九節 運送契約ノ解除及ヒ終了

運送契約ハ契約法一般ノ原則ニ依リ當事者ノ合意ヲ以テ解除スルコトヲ得ルハ當然ナリ又當事者ニ於テ其義務ヲ履行スルニ依リ終了スルハ論ヲ竣タサル所トス此當事者ノ合意スルニ非スシテ契約ヲ解除シ又履行ニ先チ契約ノ終了スルコトアリ

先ツ運送契約ノ解除ニ付キ説明スヘシ運送契約ノ解除ハ當事者ノ便宜ニ基ク場合ト法令又ハ不可抗力ニ基ク場合トアリ我商法ノ規定ニ依レハ荷送人又ハ備船者ニ對シテ運送契約ヲ解除スルヲ得ルコトヲ認ム商業上此便利ヲ與フルノ已ムヲ得サル理由ノ存スルアルカ爲メナリ何トナレハ商人カ貨物ヲ運送スルニ付テハ之ニ依リテ利益ヲ得ルコトヲ主タル目的トスルハ疑ヲ容レヌ若シ一定ノ商品ヲ運送セシメントシテ契約ヲ結ヒタルモ之ヲ運送セザルコトカ却テ其利益ト爲ルコトアルヘシ此場合ニ運送契約ハ其利益ニ反スルモ尙ホ必ス之ヲ履行セザルヘカラストスルハ商業ノ取引ニ於テ不便ヲ生スル甚シカルハ

シ是レ備船者又ハ荷送人ニ解除ノ權利ヲ認メタル所以ナリ然レトモ運送人ハ此解除ニ依リテ不利益ヲ被ルモノナルカ故ニ之ニ對シテハ相當ノ賠償ヲ與ヘシメサルヘカラス我商法ハ外國ノ商法ト同様ニ備船者若クハ荷送人カ解除ヲ爲ス場合ニ付テ運送人ニ對シ損害ヲ賠償スヘキ程度ヲ定メタリ即チ發航前ト發航後トノ二様ニ區別セラル發航前ニ於テハ運送貨ノ半額發航後ニ於テハ運送貨ノ全額ノ外運送品ニ付テ生シタル債務廢揚ノ費用等ヲ支拂フニ非サレハ運送契約ヲ解除スルコトヲ得サルモノトス商法第五九八條及ヒ第六〇〇條往復航海ヲ爲ス場合ニ付テハ備船者カ其歸航ヲ爲ス前契約ノ解除ヲ爲スニハ運送貨ノ三分ノ二ヲ拂フヘキモノトス又船舶ノ一部ヲ運送契約ノ目的トスル場合及ヒ箇箇ノ運送品ヲ運送契約ノ目的トスル場合ニハ運送貨ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得サルモノトス尤モ總テノ備船者又ハ荷送人カ同意スル場合ニ於テハ發航前ニ在リテハ運送貨ノ半額ヲ支拂フニ因リテ解除スルコトヲ得ヘシ

場合ナリ其他運送契約ヲ履行スル能ハサル事故發生スルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ請求シ得ヘキハ明カナリ我商法ニテハ之ヲ二種類ニ分テリ一ハ法令上履行シ能ハサルトキ他ノ一ハ不可抗力ニ因リテ履行シ能ハサルトキ是ナリ法令ノ規定ニ依リテ一定ノ地方ヘノ航海ヲ禁止セラレ若クハ或種類ノ貨物ノ運送ヲ禁止セラレ或ハ港灣ノ封鎖ニ因リテ發航シ能ハサルカ如キ場合ハ前ノ一例ナリ天候ノ不良等ハ後ノ好例ニ屬ス此場合ニハ當事者ノ過失ニ非ス又當事者ノ一方ノ便宜ニ依ルニ非スシテ契約ヲ解除スルカ故ニ發航前ニ於テハ双方ニ何等ノ請求權ヲ生スルコトナシ發航後ニ在リテハ備船者荷送人ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フヘキモノナリ

當事者ノ合意又ハ一方ノ請求アルト否トニ拘ハラス或場合ニ於テハ運送契約カ終了スルコトアリ即チ船舶ニ關スル事故又ハ運送品ニ付テ生シタル事故ニ因リテ運送契約カ履行スル能ハサルニ至ル場合はナリ商法ニ規定スル所ニ依レハ船舶カ沈没シタルトキ修繕スル能ハサルニ至リタルトキ船舶カ捕獲セラレルトキ運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキ是ナリ此場合ニハ運送契約ヲ執行スヘキ船舶並ニ運送セラレヘキ目的物カ滅失スルニ至リタルカ爲メ運送契約ハ終了スルモノトス船舶ニ關スル事故ニ因リテ契約終了スル場合ニハ備船者又ハ荷送人ハ運送ノ割合ニ應シ運送貨ヲ支拂フヘキモノトス運送品ノ滅失ニ因リテ契約終了スルトキハ船舶所有者ハ運送貨ヲ請求スルヲ得サルナリ第六一三條尙ホ併セテ一言スヘキハ我商法ニ運送ノ割合ニ應シテ下アルハ主トシテ運送ヲ終リタル距離ヲ標準トスヘキモノナレトモ航路航海ノ難易等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘキモノトス

第七章 旅客運送

旅客運送契約ハ運送契約ノ一種ナリ古昔旅客運送ハ物品運送ノ一種ナリト認ムル說ヲ爲セルモノアリシカ現今ハ此主義ヲ採用セズ物品運送ト相並ヒテ運送契約ノ一種ト看做スヲ普通トス旅客運送契約ニ依レハ當事者ノ一方ハ運送貨ヲ支拂ヒ他ノ一方ハ旅客ヲ運搬スル義務ヲ負フモノナリ船舶所有者カ直接ニ旅客ト契約ヲ結フトキハ其間ニ旅客運送契約ヲ成立セシムルモノナルカ旅

客ト契約ヲ結フ者カ船舶所有者ニ非スシテ傭船者ナル場合ニハ傭船者ト旅客トノ間ニハ旅客運送契約ヲ成立セシメ傭船者ト船舶所有者トノ間ニハ物品運送ノ關係ヲ生スルモノナリ

旅客運送契約ニ於テハ船舶所有者ハ乗船切符ヲ發行スルヲ普通トス此切符ハ記名式ナルコトアリ又無記名式ナルコトアリ無記名式ナルトキハ旅客カ之ヲ他人ニ讓渡スハ自由ナルモ記名式ノ場合ニハ他人ニ讓渡スコトヲ得サルモノナリ

第六三〇條無記名式ノ切符ニテモ旅客カ一旦船舶ニ乗組ミタル以上ハ更ニ其切符ヲ讓渡スコトヲ得サルモノトス此點ニ付テハ我商法ニ明文ナキモ外國ノ商法其他ノ慣例ニ依レハ此ノ如ク解釋ヲ爲スヘキモノト信ス旅客ハ反對ノ契約ナキ限ハ航海中ノ食料ヲ請求スルコトヲ得ヘシ第六三一條又航海ノ上中ニ於テ船舶ヲ修繕スルノ必要ヲ生シタルトキハ旅客ハ船舶所有者ニ對シ其修繕中相當ノ住居及ヒ食料ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ然レトモ此請求ノ權利ハ船舶所有者又ハ船長カ相當ノ船舶ヲ以テ運送ヲ繼續センコトヲ申込ムトキハ旅客ノ權利ヲ害セサル限ハ消滅スルモノナリ

第六三六條又旅客ハ手荷

物ヲ携帯シテ乗船スルコトヲ得ヘシ此場合ニ契約ニ依リ携帯スルコトヲ許サレタル手荷物ニ對シテハ船舶所有者ハ特ニ運送貨ヲ請求スルヲ得サルモノトス

第六三二條

旅客ハ乗船時期ノ定アルトキハ其時期ニ於テ又其定ナキトキハ船長ノ指定シタル時期ニ乗船スヘキ義務ヲ有ス若シ旅客カ此乗船時期ニ船舶ニ乗込マザリシトキハ船長ハ航海ヲ始メ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ此場合ニ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フヘキモノナリ然レトモ旅客カ死亡疾病其他一身ニ關スル不可抗力ノ爲メニ乗船スル能ハサル場合ニハ旅客ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ支拂フヲ以テ足レリトス尤モ此事故カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其

擇フ所ニ從ヒテ四分ノ一ノ運送貨ヲ請求スルカ若クハ運送ノ割合ニ依リテ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ以上ノ場合ノ外旅客ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ヘシ發航前ニ解除ヲ爲ストキハ運送貨ノ半額發航後ニ解除ヲ爲ストキハ全額ヲ支拂フヘキ義務ヲ有スルモノトス

船舶所有者カ旅客運送契約ニ依リテ旅客ニ對シ負フ所ノ責任ハ船舶所有者カ

物品運送契約ニ於テ備船者又ハ荷送人ニ對シ負フ所ト略ホ同様ナリ即チ發航ノ際ニ船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保シ安全ニ運送ヲ爲ス義務ヲ負ヒ船舶所有者又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送ノ爲メニ生シタル損害ニ對シ賠償スル責ヲ免レサルモノトス旅客ニ對シ生シタル損害ヲ賠償スルニハ其額ハ裁判所ニ於テ被害者及ヒ家族ノ狀況ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルモノナリ縱令特約ヲ結ヒタリトスルモ自己ノ過失船員其他使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサル事實ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ヲ免ルルコトヲ得ス又手荷物ニ付テハ運送貨ヲ請求セサル場合ニ在リテモ前ニ述ヘタルカ如ク注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ責任ヲ負ハサルヘカラス尤モ旅客ヨリ引渡ヲ受ケサル手荷物ニ付テハ之ニ生シタル損害カ船舶所有者又ハ使用人ニ過失アル場合ノ外ハ賠償ノ責ニ任スルヲ要セス旅客運送契約ハ物品運送契約ト同様ニ船舶カ沈没シタルトキ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ若クハ捕獲セラレタルトキハ當然終了スルモノナリ此事故カ航海中ニ起リタルトキハ旅客ハ運

送ノ割合ニ應シ運送貨ヲ支拂フヘキ義務ヲ有ス又航海法令ニ違反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スル能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ヘシ前ニ述ヘタルト同様ニ此事實カ航海中ニ生シタルトキハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フヘキモノナリ

第八章 海損

第一節 海損ノ意義及ヒ種類

海損トハ海上ニ於テ船舶又ハ積荷ニ直接若クハ間接ニ生スル非常ノ損害ヲ指スモノナリ非常ノ損害トハ航海上普通豫期セサル損害ヲ意味ス損害ハ或ハ直接ニ船舶又ハ積荷ノ價格ヲ減スルニ因リ生スルコトアリ或ハ間接ニ危險ニ因リテ豫定外ノ支出ヲ爲スニ因リテ生スルコトアリ即チ海損ハ通常豫定シ得ヘキ航海上ノ損失費用ニ對スル非常ノ損失又ハ費用ヲ指スモノナリ此海損カ偶然ノ事變ニ基因スルトキハ普通民法上ノ原則ニ依リ損害ヲ受ケタル者ニ於テ

之ヲ負擔セサルヘカラサルハ論ヲ竣タス若シ其損害カ他人ノ過失ニ基因スルトキハ加害者ヲシテ不法行爲ノ原則ニ依リテ賠償ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ亦疑ヲ容ルヘカラサル所トス此ノ如キ種類ノ海損ヲ單獨海損ト稱ス之ニ反シテ船舶積荷共同ノ危険ヲ避ケシムル爲メ故意ニ加ヘタル損害ハ之ヲ共同海損ト稱シ此處分ニ依リテ利益ヲ受ケタル者ヲシテ平等ニ負擔ヲ爲サシムルハ古來ノ制度ニ屬ス既ニ希臘ニ行ハレ羅馬ヲ經テ近世ニ至ルマテ多少ノ變更ハアリシモ大體ニ於テ行ハレ現今諸國ノ立法ニ於テ之ヲ認メ殆ト國際法規ノ如キ觀アリ然レトモ各國ノ法律ニ於テ規定スル所ハ尙ホ區區タルヲ免レサルヲ以テ營業者ハ共同海損ニ關シ決議ヲ爲シ各國ニ通シテ行ハルル規定ヲ見ルニ至レリ我商法ニ於テハ外國多數ノ立法例ニ倣ヒ海損ノ章ニ於テ單獨海損ト共同海損トニ付テ併セ規定スル所アルモ單獨海損ハ海商法特有ノ性質ヲ有スルコト少キカ故ニ專ラ共同海損ニ付テ規定ヲ設ケタリ現今各國ノ法典ニ於テ規定スル所ハ海損ヲ單獨海損ト共同海損トニ分ツニ止マルモ從前ハ共同海損ヲ更ニ大海損小海損トニニ分テリ所謂大海損ハ今日ニ所謂共同海損其モノニシテ

第二節 共同海損

小海損トハ水先料挽船料等多少豫期スヘキ費用ヲ稱スルモノナリキ然レトモ現今ノ法律ニ於テハ小海損ナルモノヲ認メス之ニ屬スル費用ハ通常航海ニ要スル費用ナルカ故ニ概テ船舶ノ負擔ニ屬スルモノト認メタリ

共同海損ハ我商法第六百四十一條ノ規定ニ依リテ其性質ヲ研究スルコトヲ得ヘシ該規定ニ依レハ共同海損ハ船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危険ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ナリ即チ共同海損ノ要件ハ左ノ如シ

第一 船舶及ヒ積荷ニ共同ノ危険アルコト

共同海損ヲ成立セシムルニハ船舶並ニ積荷ヲ併セ喪失スヘキ危険アルコトヲ必要トスルモノナリ單ニ船舶ヲ失ヒ又ハ單ニ積荷ヲ損スヘキ場合ニハ共同海損ヲ成立セシメサルモノナリ外國ノ法律ニ於テハ共同ノ利益ヲ目的トスル場合ニ共同海損ヲ成立セシムルモノアレトモ我商法ハ共同ノ危険ヲ避タルコト

ヲ以テ共同海損ノ基礎ト看做シタルリ此危險ハ船舶積荷ニ共同ナルコトヲ要件トス語ヲ換ヘテ之ヲ言ハハ危險ハ船舶ト積荷トカ同一ノ利害關係ヲ有スル場合ニ發生シタルモノナラサルヘカラス船舶積荷カ同一ノ利害關係ヲ有スルハ船舶ニ積荷ヲ搭載シタル時ニ始マリ之ヲ陸揚シタル時ニ終ルモノナリ故ニ積荷ヲ搭載スル前又ハ陸揚シタル後ニ於テハ共同海損ヲ成立セシメサルモノトス而シテ危險ハ天災ニ基クモ政府ノ公權ニ基クモ若クハ一箇人ノ過失ニ基クモ其結果ニ於テ船舶及ヒ積荷ノ共同ノ危險ト爲ル場合ニハ何等ノ區別ヲ生セサルモノナリ尤モ危險カ過失ニ基ク場合ニ利害關係人ハ過失者ニ對シ求償スルコトヲ得ルハ勿論ナリ而シテ危險ハ現ニ存在シ若クハ直チニ發生スルモノナラサルヘカラス將來ニ對スル注意若クハ準備ノ爲メニ爲シタル處分ハ共同海損ト爲ラサルモノトス

第二 共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ爲シタル處分ニ因リテ生レタル損害及ヒ費用ナルコト
共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ處分ヲ爲シ其結果トシテ生

シタル損害又ハ費用ハ即チ共同海損ナリ損害ト稱スルハ船舶ヲ毀損シ又ハ積荷ヲ投棄スル等ノ直接ノ損害ヲ指ス費用ト稱スルハ船舶及ヒ積荷ヲ救護スル爲メ支出シタル費用ヲ指スモノナリ此損害並ニ費用ハ何レモ非常ノ性質ヲ有スルモノナラサルヘカラス例ヘハ漂流船ニ於テ危險ヲ避クル爲メ速力ヲ増ストキニハ自ラ石炭ノ消費ヲ増スモノナリト雖モ漂流船カ速力ヲ増加スルハ航海上通常ノ事例ナルカ故ニ此ノ如キ事故ヨリ生レタル費用ハ共同海損ト爲ラサルモノナリ然レトモ損害又ハ費用ハ危險ヲ免ルル爲メ直接ニ生シタルモノノミナラス間接ニ生シタルモノヲモ包含ス例ヘハ櫓ヲ挫折シ之カ爲メ船舶ニ損害ヲ惹起シタルトキハ其損害モ亦共同海損トシテ論スヘキモノトス

第三 共同ノ危險ヲ避クルコトハ船長ノ處分ニ依ルコト
共同海損タル損害又ハ費用ハ危險ヲ避クル目的ヲ以テ爲シタル處分即チ故意ノ處分ニ依ルモノナラサルヘカラス天災等ノ結果トシテ船舶又ハ積荷ニ損害ヲ生スルモ共同海損ヲ成立セシムルコトナシ而シテ此處分ハ船長カ之ヲ爲シタルコトヲ共同海損ノ要件トス船長トハ實際上船舶ノ運航ヲ指揮スル者ヲ謂

フ船長ハ船舶ニ關シ重大ナル責任ヲ以テ指揮ヲ爲スモノナレハ船舶並ニ積荷ニ共同ノ危險ヲ避タル爲メニ爲スル如キ重要ナル處分ハ船長カ之ヲ指揮スルニ非アレハ共同海損タル效力ヲ生セシメサルモノナリ隨テ船長ニ非サル者カ獨斷ニ船舶積荷ニ關スル處分ヲ爲スモ共同海損ト爲ラス船長ノ施シタル處分カ果シテ共同ノ危險ヲ救ヌニ必要ナルモノナリシヤ否ヤハ事實問題ナリ必要ナキニ當リテ處分ヲ爲シタルトキハ船長ハ其實ニ任セサルヘカヲサルヤ明カナリ

第四 船舶並ニ積荷ヲ救フコトヲ目的トスルコト
船舶並ニ積荷ヲ併セ救フノ目的ニ出ツルニ非アレハ共同海損ハ成立セス而シテ救護ノ範圍ハ船舶及ヒ積荷ノ全部ニ亘ルコトヲ必要トセス然レトモ其一部ハ少クモ救ハレサルヘカラサルモノナリ若シ船舶及ヒ積荷ノ全部カ滅失スルトキハ分擔ヲ爲スヘキナキニ至ルヲ以テ共同海損ヲ成立セシムルコトナシ以上述ヘタル要件ヲ具フルトキハ依テ生シタル損害並ニ費用ハ共同海損トシテ論スヘキモノナリ外國ノ商法ニ於テハ共同海損ノ重ナル場合ヲ列記スルモ

ノアレトモ我商法ハ之ヲ採用セス避難港ヘ入港スルコト、積荷船舶ニ加ヘタル損害任意ノ坐礁及ヒ膠砂、共同海損ニ要シタル費用等ハ其主要ナルモノナリ共同海損タル損害又ハ費用ハ左ノ標準ニ據リ補償セラレルモノトス
一 船舶 船舶積荷ノ共同危險ヲ避クル爲メ船舶カ受ケタル總テノ損害ハ共同海損トシテ補償ヲ受クルコトヲ得ヘシ例ヘハ海難ニ遭遇シテ共同ノ危險ヲ避クル爲メ帆樫ヲ切棄テ又ハ錨ヲ投棄ツル等ノ處分ヨリ生シタル損害ハ總テ關係人ヲシテ分擔セシムルコトヲ得ルカ如シ損害ハ實際ノ額ニ依リ普通ハ鑑定人ヲシテ之ヲ計算セシムルモノトス我商法ニ依レハ船舶ノ價格ハ船舶ノ到達ノ港及ヒ時ニ於ケル價格ヲ基礎トシテ算定スヘキモノナリ而シテ船舶ニ備フル武器、食料、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ衣類ハ海損ノ分擔ヲ爲サスト雖モ此等ニ加ヘタル損害ニ付テハ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ヘシ此等ノ物ハ商品普通貨物ト同一ニ看做ス能ハサルニ由ル獨逸商法ニ於テハ船舶カ航海中ニ修繕ヲ加ヘタルトキニハ鑑定人ノ判定シタル修繕費用ヲ以テ損害額トシ新材料ヲ以テ補修シタル舊材料ノ賣得金ヲ差引ク爲メ新舊交換差額トシテ

三分ノ一ノ價額ヲ減スルコトト爲レリ尤モ鎊及ビ滿一箇年ヲ經過セタル船舶ニ在リテハ此減額ヲ爲サシメサルコトトス「ヨトクアントウエ」ルズ規則ニ於テモ之ト同様ニ新舊價格ノ差ヲ年齡ニ應ジテ減額スルコトト定メタリ佛國商法ニ於テハ船舶ニ加ヘタル損害ハ投荷ノ便利ヲ企フル爲メノ外共同海損ヲ成立セシメサルヲ原則トス我商法ニ於テハ佛蘭西ニ於ケルカ如ク船舶ニ加ヘタル損害ヲ制限セサルハ明カナリ然レトモ船舶カ修繕ヲ爲シタル場合等ニ就キ明文ヲ設ケサルヲ以テ實際ノ損害ヲ算定シテ計算スヘキモノト認ム

二 積荷 積荷ニ對スル損害ハ減失ノ場合ト毀損ノ場合トアリ其損害ノ額ハ何レモ陸揚ノ地及ビ時ニ於ケル價格ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノナリ從前ハ減失シタル積荷ノ價格ヲ算定スルニ購入價格ニ依ルト爲シタルコトアルモ不當タルヲ免レス何トナレハ若シ購入價格ニ依ルトスレハ同一種類ノ積荷ニシテ投荷セラレタルモノト救助セラレタルモノトアル場合ニ陸揚地ノ相場ニ依リ一ハ利益ヲ得一ハ不利益ヲ受タルノ不公平アリテ共同海損ノ性質タル積荷關係人ノ實際ノ損害ヲ補償スル趣旨ニ反スル嫌アルヲ以テナリ故ニ我商法

ニ於テハ前ニ述ヘタル如ク積荷ノ陸揚地ノ價格ニ從ヒ實價ヲ以テ算出スヘキモノトヒリ實價ト云フハ陸揚地ニ於ケル積荷ノ價格ヨリ負擔ヲ免レタル費用例ヘハ運賃關稅陸揚費用等ヲ控除シタルモノヲ指ス次ニ毀損シタル積荷ノ損害額ハ減失シタル積荷ノ場合ト同シク陸揚ノ地及ビ時ニ於ケル實價ヲ算出シ毀損セラレタル状態ニ於ケル實價ヲ控除シタル差額トス我商法ノ規定ニ依レハ船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス又沿岸小航海ノ場合ヲ除キ甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害ニ就テモ同様ニ補償ヲ受クル能ハサルモノトス前ノ場合ニ於ケル積荷ハ普通ノ方式ヲ履行シテ船積シタルモノニ非ス且品質ヲ明カニスルコトヲ得ス往往ニシテ詐僞ノ手段ニ出ツルコト少カラサルカ爲メナリ後ノ場合ニ於ケル甲板上ニ積荷ヲ爲スコトハ近距離航海ノ場合ノ外荷送人等ノ承諾ナキトキハ之ヲ爲スヘキモノニ非ス荷送人等カ承諾ヲ爲シタリトセハ危險ニ臨ミ易キ場所ニ積載スルモノナレハ損害ヲ受クルモ補償ヲ受ケサルコトヲ承認シタリト

推定スルモ不可ナキヲ以テ補償ヲ爲ササルモノト定メタルナリ沿岸小航海ノ區域ハ明治三十二年五月遞信省令第二十號ニ規定セララル或場合ニハ積荷ノ實價カ船荷證券其他ノ書類ニ記載スル額ヨリ高キコトアリ此場合ニハ其積荷ニ加ヘタル損害ハ書類ニ記載シタル低キ額ニ依ルヘキモノトセリ

三 運送貨 我商法第六百十七條ノ規定ヨリ觀ルトキハ共同ノ危険ヲ救フ爲メ處分セラレタル運送品ニ對シテハ運送貨ノ全額ヲ支拂フヘキコトヲ要スト爲ス故ニ船舶積荷共同ノ危険ヲ避ケル爲メ減失毀損シタル積荷ノ運送貨ハ船舶所有者ニ於テ之ヲ受取ルカ故ニ積荷ノ處分ニ依リテ運送貨ニ付キ海損ヲ受ケサルモノナリ外國ノ法律ニ於テハ積荷ヲ運送セサルトキハ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ストスルモノアリ故ニ運送貨ノ損失ニ對シ共同海損トシテ補償ヲ受クルコトヲ認ムルモノアルモ我商法ハ之ヲ採用セス

四 費用 船舶積荷共同ノ危険ヲ避ケル爲メ爲シタル支出ハ直接間接共ニ實際ニ支出シタル額ヲ以テ共同海損ノ費用ト爲スモノナリ利子若クハ報酬ヲ包含ス

以上述ヘタル損害及ヒ費用ハ船舶積荷及ヒ運送貨ニ於テ之ヲ分擔スルモノナリ其分擔ノ方法ニ付テハ種種ノ方法アレトモ概シテ之ヲ言ヘハ各國ノ立法ハ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得ヘシ其一ハ船舶積荷ノ價格ト運送貨ノ割合ヲ以テ負擔スルコト但運送貨ニ付テハ航海ノ費用ヲ減スルモノトス其二ハ船舶ノ價格ノ半額ト積荷ノ價格ト運送貨ノ半額トノ割合ニ依リテ負擔スルコト其三ハ船舶積荷ノ價格ト運送貨ノ半額トノ割合ニ依リテ負擔スルコト是ナリ我商法ニ於テハ第三ノ方法ヲ採用スルモノナリ左ニ其各項ニ付キ説明スヘシ

一 船舶 船舶ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格ヲ以テ海損ヲ分擔スルモノナリ我商法ニ於テハ其金額ヲ以テ分擔スルモノト定ムルモ佛蘭西ノ法律ニ於テハ船舶ノ價格ノ半額ヲ以テ負擔ヲ爲スモノトセリ然レトモ此規定ハ學者間ニ理論ニ適セサルモノトシテ批難スル所ナリ何トナレハ佛蘭西ノ古代ノ法律ニ於テ船舶ノ價格ヲ半額ト爲シタルハ發航港ニ於ケル價格ヲ標準トシテ其半額ト爲シタルモノニシテ現在ニ於ケル如ク到達港ニ於ケル價格ノ半額ヲ意味シタルニ非ス海難ニ遭遇シタルトキハ船舶ノ價格ニ變動ヲ生スルヲ以テ巨細ノ

計算ヲ爲ス煩ヲ避クル爲メ半額ト定メタルニ外ナラス然ルニ現行法ニ於テハ到達港ニ於ケル價格ノ半額ト規定シタルニ由リ半額ト定ムル理由ヲ失フニ至レリ是レ佛蘭西法ノ規定ニ對シ批難アル所以ナリ

二 積荷ノ積荷ノ價格ハ船舶ト同シク陸揚ヲ爲ス地及ヒ時ニ於ケル價格ヲ標準トシ其價格ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セザリシ運賃關稅其他ノ費用ヲ控除シタルモノナリ海損ヲ負擔スル積荷ハ海損發生ノ當時船舶ニ搭載セラレタルモノナラサルヘカラス故ニ海損カ發生シタル當時未ダ船積セラレタルカ若クハ既ニ陸揚セラレタルトキハ海損ノ分擔ヲ爲ササルモノナリ船荷證券等ニ積荷ノ實價ヨリ高キ價格ヲ記載シタルトキハ其記載シタル價額ニ應シテ分擔ヲ爲スヘキモノトス

三 運送貨物運送貨物ハ我商法ニ依レハ半額ヲ以テ共同海損ノ分擔ヲ爲スヘキモノトス外國ノ法律ニ於テハ或ハ運賃ノ實額ニ依ラシムルモノアリ實額トハ運送貨總額ヨリ乗込員ノ食料給料ヲ減シタルモノナリ他ノ法律ニ於テハ收入運賃ノ三分ノ二ヲ以テ分擔ヲ爲スヘキモノトスルモノアリ第一ハ英吉利及ヒ

手續開始ノ申立トヲ同等視シタルニ過キスト雖モ獨逸破産法ハ主觀的及ヒ客觀的基礎ニ依リテ債權者ヲ保護スルニ努メタリ故ニ獨逸破産法ニ於テハ不法行爲ノ取消權破産的取消權及ヒ無償行爲ノ取消權ノ三種ヲ設ケ債務者カ其破産宣告前ニ債權者ヲ詐害スルノ目的ヲ以テ爲シタル行爲ハ相手方カ其情ヲ知リタルトキニ限り破産債權者ヲシテ其利益ノ爲メニ之カ取消ヲ爲スコトヲ得セシメ(不法行爲ノ取消權)獨逸破産法第三一條損失ノ分擔ヲ必要トスルニ至リタル債務者ノ財産ニ付キ利益ヲ獨占シ以テ債權者全體ノ利益ヲ無視シタル破産宣告前ノ行爲ハ相手方カ支拂ノ停止又ハ破産手續開始ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限り破産債權者ヲシテ其利益ノ爲メニ之カ取消ヲ爲スコトヲ得セシメ(破産的取消權)獨逸破産法第三〇條又債務者カ其破産宣告ニ爲シタル無償行爲ハ破産債權者ヲシテ其利益ノ爲メニ之ヲ取消スコトヲ得セシム無償行爲ノ取消權(獨逸破産法第三二一條)前二者ノ取消權ハ主觀的基礎ニ又後者ハ客觀的基礎ニ依リタルモノナリ(獨逸主義)我破産法ハ主トシテ佛主義ヲ摸範トシ商法第九百九十條乃至第九百九十二條及ヒ第九百九十六條ニ於テ破産宣

告ノ效力トシテ取消權ニ關スル規定ヲ設ケタリ(獨逸破産法ニ於テモ其破産法草案理由書及ヒ「フエルト」氏ノ見解ニ依レハ取消權ハ破産手續開始ノ效力トシテ規定セラレタルモノノ如シ)立法上ノ理由取戻權ハ此ノ如ク散失シタル破産財團所屬ノ財産ノ復歸ヲ目的トスルモノナルヲ以テ其行使ハ破産財團ヲ增加スルヤ明白ナリ(效力)而シテ取消權ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ設ケラレタル財産權ナルヲ以テ(1)破産手續ノ終結(2)拋棄又ハ和解(3)取消權ノ目的物ノ返還(4)時効ニ因リテ消滅ス取消權ニ關スル詳細ノ説明ハ破産ノ效力ノ説明ニ譲ル

(E) 破産以後ノ財産ノ取得 我破産法ハ前述ノ如ク羅馬主義ヲ是認シタルヲ以テ破産宣告以後ニ於ケル破産者ノ財産ノ取得ハ破産財團増加ノ原因ト爲ル故ニ破産者カ無主物ノ占有相續遺贈等ノ如キ無償行爲(雇傭請負商業等)ノ如キ有償行爲ニ因リテ取得シタル財産(純益)ハ破産財團ニ屬ス隨テ我破産法ハ佛國商法ト同シク重複破産ヲ認メサルモノト謂ハサルヲ得ス獨逸破産法ハ前述ノ如ク破産財團ヲ破産宣告ノ當時ニ於テ破産者ノ有スル財産ニ限定シタルヲ以

テ破産宣告以後ニ於ケル破産者ノ財産取得ハ破産財團増加ノ原因ト爲ラス故ニ破産財團ハ破産債權者ノ平等の満足ニ供シ破産宣告以後ニ於テ破産者ノ取得シタル財産ハ破産宣告以後ニ於テ破産者ニ對シ財産權ヲ取得シタル債權者ノ満足ニ供スルモノナリ隨テ破産者カ其破産宣告以後ニ於テ財産權ヲ取得シタル債權者ニ對シ其債務ヲ履行スルコト能ハサル場合ニ於テハ破産裁判所ハ該債權者ノ申立ニ因リ第一ノ破産手續ノ終結前ニ於テ更ニ第二ノ破産ヲ宣告ス而シテ第一ノ破産宣告ノ當時破産債權者タリシ者ハ第二ノ破産宣告ヲ申立タルノ權利ナシ何トナレハ該債權者ハ第一ノ破産手續繼續中破産財團ニ屬セサル財産上ニ執行ヲ爲スコト能ハナリ又第二ノ破産宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ唯第一ノ破産手續開始後破産者ノ債權者ト爲リシ者カ破産手續ニ參加スルコトヲ得ルニ止マリ第一ノ破産宣告ノ當時債權者タリシ者ハ破産手續ニ參加スルコトヲ得ス何トナレハ第二ノ破産ニ於ケル財團ハ第一ノ破産ニ於ケル財團ニ非サレハナリ然レトモ第一ノ破産手續終結後ニ於テハ該債權者カ其未済額ニ付キ第二ノ破産ニ於テ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ妨

ケス蓋シ破産手續終結後ニ於テハ各破産債權者ハ破産者ノ財産上ニ執行ヲ爲スコトヲ得ヘケレハナリ

(四) 破産財團ノ消滅 破産財團ハ破産債權者ニ平等ナル満足ヲ得セシムルノ用ニ供スル破産者ノ財産ナルヲ以テ破産手續ノ終結ニ因リテ消滅スルヲ當然ナリトス隨テ破産手續カ協議契約ニ因リテ終結シタルトキハ破産者タリシ債務者ハ破産財團タリシ財産ノ占有管理及ヒ處分ノ權利ヲ回復シ又破産手續カ配當ニ因リテ終結シタルトキハ破産者タリシ債務者ハ破産財團ノ殘餘財産ノ返還ヲ受ク而シテ管財人カ破産手續ノ存続中發見スルコト能ハサリシ破産財團ニ屬スヘキ財産ハ未タ完備ヲ受ケサル破産債權者ニ配當セサルヘカラス何トナレハ配當スヘキ破産財團ヲ配當セスシテ破産手續ヲ終結シタルトキハ未タ適法ナル破産手續ノ終結アリタルモノト謂フコト能ハサレハナリ(商法第一〇四八條)……財團ノ配當ヲ全ク終リタルトキハ……ノ法文引用瑞西破産法第一九七條第二項)

第三章 破産宣告ノ效力

佛法系ノ立法及ヒ佛派ノ法學者ハ時期ヲ標準トシ破産宣告ノ效力ヲ二分シテ將來ニ關スル效力ト既往ニ關スル效力即チ支拂停止ノ效力ヲ規定シ又之ニ基キ説明ヲ爲スヲ常トス將來ニ關スル效力トシテハ債權者ニ對シ各別的訴訟行爲ヲ禁止シ債務者ニ對シ財産ノ管理及ヒ處分ノ權能ヲ喪失セシムルカ如キ破産ノ目的ヲ達スルニ必要ナル數多ノ效力ヲ規定シ既往ニ關スル效力トシテハ破産宣告前ニ於ケル或行爲ヲ無効トシ或ハ取消シ得ヘキモノト爲シタリ是レ蓋シ唯將來ニ關スル效力ヲ規定スルノミヲ以テハ債權者全體ノ利益ヲ保護スルニ不十分ナレハナリ元來債權者全體ノ利益ト社會的信用維持ノ利益トハ互ニ調和スルモノニ非サルヲ以テ換言スレハ債權者全體ノ利益ノ爲メニ債務者ノ既往ノ行爲ヲ無効ト爲サハ取引ノ安全ヲ害シ社會ノ信用ヲ損スルニ至ルヲ以テ債務者カ破産宣告前ニシテ且支拂停止前又ハ其後一定ノ期間内ニ爲シタル行爲ハ破産債權者全體ニ不利益ナル一事ヲ以テ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモ

ノト爲スヘキモノナルヤ又ハ民法上ノ取消權民法第四二四條ニ關スル要件ノ存スルトキニ限り之ヲ取消スコトヲ得セシメ破産法ニ於テ特別ニ債權者全體ノ保護ノ規定ヲ設クルノ必要ナキヤハ立法上最モ困難ナル問題ナリ破産宣告ノ將來ニ關スル效力ヨリモ稍ヤ寬ナル既往ニ關スル效力ヲ是認シタル佛國千八百三十八年ノ法律ハ多年ノ經驗ニ基キテ爲シタル適當ノ立法トシテ佛法學者ノ是認スル所ナリ英吉利破産法モ亦既往ニ對スル效力ヲ認メ破産宣告ノ原因タル行爲カ其申立ヨリ遡リテ三箇月内ニ發生シタルトキニ限り宣告ヲ爲シ其效力ヲ其原因タル行爲發生ノ日ニ遡及セシムルモノノ如シ英吉利破産法第四三條第四七條乃至第四九條獨逸及ヒ瑞西ノ破産法ニ於テハ破産宣告ノ效力ハ其宣告ノ日時ヨリ發生スルモノトシ佛法主義ヲ排斥シテ既往ニ關スル破産宣告ノ效力ヲ認メナリシ(獨逸舊破産法第一〇〇條同新第一〇八條瑞西破産法第一七五條蓋シ破産宣告ヲ受クヘキ境遇ニ在ル債權者ノ法律行爲ト雖モ荷モ破産宣告ノ效力トシテ財産ノ處分無能力者ト爲ル以前ニ於テ爲シタルモノナル以上ハ適法ニシテ且有效タリトノ思想ニ基クカカシ然レトモ破産ニ近キ

債務者カ債權者ノ損害ニ於テ爲シタル行爲ハ債權者保護ノ爲メニ之ヲ民法上ノ取消訴ノ適用トシテ民法第四二四條若クハ其適用ノ擴張トシテ法律上特定ノ要件ノ下ニ於テ取消スコトヲ許シタリ前述シタル取消權ナルモノ即チ是ナリ(取引ノ安全ヲ保ツカ爲メ獨逸破産法ハ一ノ制限ヲ附シ破産手續ノ開始ヨリ遡リテ六月以前ニ爲サレタル行爲ハ支拂停止ヲ認識シタリトノ原因ニ因リ取消サレサルコトヲ獨逸破産法第二十六條ニ規定シタリ)(獨逸舊破産法第二三條以下瑞西破産法第二八五條以下此兩主義ハ理論ヲ異ニシ結果ヲ同シウスルニ過キス我商法ハ起草者ノ説明條文上ノ體裁等ニ據リ佛派ニ屬スルモノナルコト論ヲ埃タス其他破産宣告ハ國際上如何ナル效力ヲ生スルヤヲ研究セサルヘカラス故ニ以下本章ヲ三分シ將來ニ關スル效力ト既往ニ關スル效力ト及ヒ破産宣告ノ涉外的效力ヲ略述スヘシ

第一節 將來ニ關スル破産宣告ノ效力

本節ノ效力ヲ細別シテ(一)破産者ノ債權者ニ對スル效力(二)破産者ノ法律行爲ノ

履行ニ對スル效力(三)破産者ノ債務者ニ對スル效力(四)第三者ニ對スル效力ト爲シ左ニ説明スヘシ

(一) 破産者ノ債權者ニ對スル效力 破産手續ハ總破産債權者ニ平等ナル金銭的満足ヲ得セシムルヲ目的トスルコトハ前述シタル所タリ故ニ此目的ニ適セサル破産債權者ノ各別的權能ハ之ヲ制限セサルヲ得ス若シ斯ル制限ナクシハ破産債權者ノ共同目的平等ナル金銭的満足ヲ達セント欲スルモ得ヘカラサルナリ隨テ破産債權者ニ對スル觀念ハ實ニ此觀念ニ基クモノト謂フヘシ

(A) 強制執行ノ禁止 破産宣告ハ破産債權者ノ爲メニ新ナル法律保護請求ヲ成立セシムルモノニ非ス破産手續ニ於テ特定ノ法定要件ノ下ニ法律保護ヲ請求スル權利ハ既ニ破産手續ノ開始前ニ存在シ破産宣告ハ單ニ其法定要件ノ存在ヲ確認シタルモノニ外ナラス又破産宣告ハ各破産債權者ノ有スル訴ニ依レル法律保護請求權利ヲ剝奪スルモノニ非ス各破産債權者ハ其權利ヲ破産手續繼續中破産者ニ對シ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ主張スルコトヲ得故ニ破産者ニ對シ確認ノ訴及ヒ執行ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ然レトモ破産宣告ハ各

破産債權者ノ強制執行ニ依レル法律保護請求權利ヲ制限シ破産債權者ヲシテ破産手續繼續中破産の強制執行ニ依ルノ外他ノ執行方法ニ依リテ私權ノ満足ヲ享有スルコトヲ得セシメス蓋シ破産債權者團體ノ爲メニ破産財團上ニ成立シタル破産の差押權ハ破産債權者一箇人ノ爲メニスル強制執行假差押ノ執行等ニ依リテ害セララルモノニ非サレハナリ(第九八七條)獨逸舊破産法第一〇條第二號同新破産法第一二條第一四條「フツチング」氏等ハ破産手續繼續中ハ破産者ニ對シ執行訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(確認訴訟ハ此限ニ在ラズト曰ヘリ)是レ破産ノ原則上不能ナルノミナラス被告タル破産者ハ執行訴訟ノ目的タル給付ヲ處分スルコト能ハサルモノナルヲ以テ訴ヲ大早計ニ失シタルモノトシテ却下セサルヘカラストノ論旨ニ基クモノナルヘシト雖モ損失分擔主義ノ實行ハ強制執行ヲ許ササルノミヲ以テ之ヲ全ウスルコトヲ得ルカ故ニ之ヲ正當ノ見解ナリト謂フコトヲ得ス強制執行ノ禁止ハ職權ヲ以テ調査スヘキモノタリ而シテ此禁止ニ反シテ債權者カ強制執行ヲ爲シタルトキハ管財人ハ民事訴訟法第五百四十四條ニ基キ異議ヲ申立テ及ヒ既ニ爲シタル執行處分ヲ無効ナリ

ト主張スルコトヲ得ヘシ然レトモ該禁止ハ例外ニシテ別除權者取戻權者及ヒ財團債權者ニ對シテ效力ナシ何トナレハ此等ノ權利者ハ破産債權者ニ非サレバナリ(第九八七條優先權ノ存スルニ非サレハ參照獨逸舊破産法第四九條同新破産法第一一條)

破産手續ノ開始ハ破産債權者ニ對シテ破産手續ニ依ル法律保護ノ外ニ何等ノ法律保護ヲ要求スルコトヲ許ササルノ原因ト爲ラス然レトモ同一ノ權利ニ付キ同時ニ二種ノ法律保護ヲ要求スルコトハ努力費用及ヒ時間省略ノ原則ニ觸ルルヲ以テ之ヲ許ササルヲ當然トス故ニ破産債權者カ其債權ノ届出ヲ爲シ破産手續ニ加入シタルニモ拘ハラズ破産手續中破産者ニ對シテ起訴シタルトキハ破産者ハ權利拘束ト同性質ノ防禦方法ヲ提出シテ訴ノ許否ヲ争フコトヲ得破産者カ債權調査會ニ於テ破産債權者ノ届出ヲタル債權ヲ争ヒタルトキハ此限ニ在ラス何トナレハ破産手續ハ破産者ノ異議ヲ成功セシムルカ爲メノ手段ニ非サレハナリ又管財人及ヒ各利害關係アル債權者ハ破産債權者カ破産手續中破産者ニ對シテ爲シタル訴訟ノ目的タル債權ヲ届出ラタルトキニ於テ其届出

ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得權利拘束ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキモノニ非サルヲ以テ訴若クハ債權ノ届出ヲ却下スヘキヤ否ヤノ論點ハ職權ヲ以テ調査スヘキモノニ非ス(民事訴訟法第一九五條第二〇六條)但債權者ハ法律保護ノ請求ヲ變更シ破産手續ニ依ル届出ヲ取下ケテ破産者ニ對シテ起訴シ又反對ニ破産者ニ對スル訴ヲ取下ケテ其破産手續ニ依ル權利ノ主張即チ届出ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ法律ハ斯ル變更ヲ禁止セサレハナリ管財人利害關係アル債權者及ヒ破産者カ前示ノ如キ防禦方法ヲ提出セス又破産債權者カ法律保護ノ請求ヲ變更セサル場合ニ於テハ同一ノ債權ニシテ破産手續ニ於テハ破産者ニ對シテ確定シ又訴訟手續ニ於テハ破産者勝訴ノ判決ニ依リテ破産者ニ對シテ成立セサルノ結果ヲ生スルハ當然ナリ斯ル場合ニ於テハ民事訴訟ニ於テ當事者カ權利拘束ノ妨訴抗辯ヲ提出セザリシカ爲メニ同一事件ニ付キニ以上ノ異ナリタル判決アリタル場合ニ行ハルル同一法理ニ依リ論結セサルヘカラス(子輩ハ新法ハ舊法ヲ廢スルノ原則ニ基キ以後判決ヲ以テ效力アリト論結スルヲ正當ト信スレトモ)ゾイフェルド氏ハ先ツ民事訴訟法第四百六十九條

第六即チ獨逸新民事訴訟法第五百八十條第七(2)ニ基キテ以後ノ行爲ヲ攻撃シ其之ヲ爲ササル場合ニ於テ民事訴訟法第五百四十五條即チ獨逸新民事訴訟法第七百六十七條ニ基キ異議ノ訴ヲ以テ以前ノ行爲ヲ攻撃スルコトヲ得ヘシト主張シタリ)

同一ノ請求權ニ付キ同時ニ破産手續及ヒ其他ノ法律保護手續ニ依ルコト能ハサルヲ以テ破産手續開始以前ニ破産者タル債務者ト破産債權者タル債權者ノ間ニ於テ其有スル債權ニ付キ訴訟カ繫屬シタルトキハ破産手續ノ開始ニ因リ其訴訟ヲ中斷スルヲ當然トス(民事訴訟法第一七九條、獨逸舊民事訴訟法第二八八條、同新民事訴訟法第二四〇條蓋シ破産手續ノ開始ノミヲ以テ訴訟ノ當事者タル債權者カ其相手方ノ破産手續ニ加入シ且之ニ依リテ破産手續ト其他民事訴訟手續トノ衝突ヲ惹起スルコトヲ保スルモノニ非ス然レトモ債權者ハ破産手續ニ依ラント欲スルモノナリト推定スルヲ適當トス故ニ斯ル推定ニ基キ繫屬訴訟ヲ中斷セシムルニ外ナラサルナリ、中斷シタル訴訟ハ債權者カ破産手續ニ加入シタル場合ニ於テハ債權者ハ其届出テタル債權訴訟ノ目的ニ對シ債權

調査會ニ於テ破産者カ異議ヲ申立テタル場合ニ於テ破産者ニ對シ之ヲ受繼スルコトヲ得獨逸新破産法第一四四條第二項之ニ反シテ債權者カ破産手續ニ加入セサル場合ニ於テハ破産者ニ對シテ直チニ受繼スルコトヲ得訴訟ノ繫屬ナキトキハ債務者ニ對シテ新訴ヲ提起スルコトヲ得ルハ前述ノ如シ)是レ破産債權者團體ヲ害セサル範圍内ニ於テ債務者ニ對スル強制執行ノ債務名義ヲ得ルノ必要アルカ爲メナリ而シテ破産手續ニ加入セスシテ直チニ債務者ニ對シ訴訟ヲ續行スルモ爲メニ破産手續ニ加入スル權利ヲ拋棄シタルモノト認ムヘカラス故ニ訴訟ヲ續行シタル債權者カ爾後破産手續ニ加入シタルトキハ同一ノ請求權ニ付キ同時ニ二箇ノ法律保護ノ請求ヲ爲シタルモノトシテ之ヲ取扱ハサルヘカラス訴訟ノ中斷ハ破産手續ノ終局ニ因リテ終局ス但其以前ニ於テ訴訟ノ受繼アリタルトキハ此限ニ在ラサルコトハ民事訴訟法第一百七十八條ニ依リテ明白ナリ

各破産債權者ハ破産手續中ニ於テ強制執行ヲ爲スコト能ハサルニ止マルヲ以テ新訴ノ提起又ハ破産宣告前ニ繫屬シタル訴訟ノ續行ニ依リ破産者ニ對シテ

勝訴ノ判決ヲ受タルコトヲ得而シテ、斯ル判決カ給付義務ノ確認ニ非スシテ、其負擔ヲ命シタルモノナルトキハ、其性質上破産手續ノ終局後ニ於テ執行シ得ヘキモノタリ。該判決ハ破産手續ノ終局後ニ非スシテ執行スルコト能ハサルモノタルニ拘ハラヌ。假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ルノ妨ト爲ラス何トナレハ假執行ハ判決カ故障又ハ上訴ニ關係ナク執行シ得ヘキ旨ヲ宣言スルニ外ナラサレハナリ。破産手續カ判決確定以前ニ終局シタル場合ニ假執行宣言ノ實益アリ。又執行文付與ヲ妨ケス何トナレハ執行文付與即チ強制執行命令ハ抽象的ニ執行ヲ許スヘキ旨ヲ表示スルニ止マリ破産手續繼續中ナルカ故ニ強制執行ヲ實施スルコトヲ得サルカ如キ現實的調査ハ執行機關ノ爲ス所ナレハナリ。破産手續開始以前ニ於テ既ニ破産者ニ對シ開始セラレタル強制執行手續ハ爾後ノ破産手續開始ニ因リ其執行ヲ妨ケラルルモノニ非ス(中斷スルモノニ非ス)。(民事訴訟法第五二條參考)然レトモ破産手續繼續中ハ破産債權者各自ノ爲メニスル強制執行ヲ許ササルヲ以テ破産債權者タル差押債權者ハ債務者ニ對スル破産手續開始後ニ於テ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルヤ當然ナリ故ニ管財人

カ破産債權者團體ノ爲メニ既ニ開始シタル執行ヲ續行スルヲ得ルノミ是レ差押ニ因リテ生シタル利益ヲ破産債權者團體ニ與フルノ法意ニ外ナラス。奧太利破産法ハ差押ニ質權ノ效力ヲ認メタルヲ以テ差押債權者ハ別除權者トシテ管財人ニ對シ執行ヲ繼續スルコトヲ得セシメ(奧太利破産法第二一二條)獨逸破産法亦然ラン。獨逸破産法第一一條第二六條第一項、第四一條第九、同新破産法第一四條、第一二六條第一項、第四九條第九、白耳義商法(第四五三條)和蘭商法(第七七一條)西班牙民事訴訟法(第一一七三條、第一一八六條、第一三三六條)瑞西破産法(第一〇條)如キハ執行手續ト執行費用トヲ全ク無用ナラシムルカ如キ不經濟ノ結果ヲ避ケル目的ヲ以テ執行手續ト破産手續トノ關係ヲ詳細ニ規定シタリ。我破産法ニ斯ル規定ヲ缺クハ立法上ノ缺點ナリ。(B) 財團ニ對スル利息ノ停止 破産債權ノ利息ハ其法定タルト約定タルトニ拘ハラヌ。破産宣告ノ日ヨリ破産財團ニ對シテ其發生ヲ止ムトハ我商法及ヒ多數ノ立法例ノ採用シタル所ナリ(第九八九條)獨逸新破産法第六三條第一、佛蘭西商法第四四五條第一項、白耳義商法第四五一條、伊太利商法第七〇條、西班牙商

法第八八四條瑞西破産法第二〇九條但塊太利破産法第一七條同民法第一三三三條第一三三四條等ニ依レハ反對ニ利息ヲ發生スト規定シタリ千八百六十九年英吉利破産法第三六條ハ利息ノ停止ヲ明文ニテ規定シタレトモ現行破産法ニハ斯ル明文ヲ缺ケリ然レトモ同一法意タルコトハ疑ナシト信ス其理由ハ佛派ノ見解ニ依レハ計算ノ便益ノ爲メニシ或ハ債權者間ニ平等ヲ維持スルニ在リト云フモノノ如シト雖モ我商法カ破産ノ效力中ニ於テ利息停止ニ關スル規定ヲ設ケタルハ佛派ノ見解ニ基キタルコト瞭然タリ予輩ハ寧ロ獨派ノ見解ニ依リ破産宣告以後ニ發生スヘキ利息ハ將來ノ債權ニシテ破産宣告ノ當時ニ存在シタルモノニ非サルヲ以テ破産債權ト爲ラス隨テ破産債權トシテ主張スルコトヲ得サルニ在リト謂フヲ正當ト認ム(佛蘭西商法大家「ダアレ」)「ポアステル」ローレン「リオンカ」諸氏ノ説明スル所ニ依レハ破産債權中ニ無利息ノモノト否トアリ又其利息ノ高低アリ斯ル場合ニ於テハ破産手續カ其終マテ多數ノ日時ヲ要スルト否トニ從ヒテ有利息若クハ高利息額ノ債權者ハ利ヲ受ケ他ノ債權者ハ不利息ヲ受ケルノ不公平ヲ生ス又計算上不便ヲ來シ手續ノ終局ヲ

ノ豫算ニ對スル議定權ト兩兩相對スルモノニシテ即チ憲法第七十二條ニ於テハ「國家ノ歲入歳出ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ」ト規定シ會計検査院法第十五條ニハ「會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得」ト規定セリ此等ノ規定ニ由リテ之ヲ觀ルトキハ豫算執行ノ監督ハ一ニ行政部内ニ屬シ議會ハ憲法ニ依リテ之カ報告ヲ受クルニ止マリ其實質ニ付テ何等ノ權能ヲ有セサルモノトス唯夫レ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算外ニ生シタル支出アリテ豫備金ヲ支出シタル場合及ヒ憲法第七十條ニ依リ公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情况ニ依リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサル場合ニ於テ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲シタルトキハ帝國議會ノ承諾ヲ要スルコトハ憲法ノ規定スル所ナリ

第二節 會計

政府ノ會計ニ關スル重要ナル事項ハ憲法第六十二條乃至第七十二條ニ於テ之ヲ規定セリ此等ノ說明ハ憲法ノ講義ニ譲リ茲ニハ現行會計法規ニ付キ現實ノ收入支出ニ關スル法則ノ綱要ヲ紹介スルニ止メトス

政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終リ出納官吏ハ一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ係ル事務ヲ翌年度ノ十一月三十日マテニ完結シ決算ヲ爲ササルヘカラス

政府ノ歳入歳出ハ前節ニ論シタルカ如ク毎年豫算ニ編製シ議會ノ協贊ヲ經テ定マリタルモノナルヲ以テ各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得サルノミナラス豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サルナリ

各官廳ハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス國家ノ資金ハ總テ國庫ニ集注シ國庫以外ニ特別ノ國家ノ財團ナキヲ以テ原則トス即チ國務大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムルコトヲ要シ自ラ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得ス固ヨリ毎會計年度ニ於ケル國家ノ支出ハ其

年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スルモノナリト雖モ其收入支出孰レモ必ス國庫ノ門戸ヲ出入セサルヘカラス國務大臣ハ其收入金ヲ國庫ニ納メ國庫ハ國務大臣ノ爲メニ法令ニ依リ正當ト認ムヘキ支出ヲ支出ス國務大臣ハ尙モ國庫ノ働ヲ爲スコトヲ得サルモノトス此ノ如ク國務大臣ハ其手ニ現金ヲ有スルコトナキヲ以テ其現金ヲ要スルニ際レテハ之ヲ國庫ニ申出テ其認諾ヲ經テ國庫ヨリ直接ニ債主ニ支拂ハシムルノ方法ヲ採ラサルヘカラス是レ會計法カ國務大臣ハ其所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ支拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ命シテ支拂命令ヲ發セシムルコトヲ得ト規定シ又「國庫ハ法令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ得ストシ及ヒ國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若クハ其代理人ノ爲ニスルニアラサレハ支拂命令ヲ發スルコトヲ得スト」規定シタル所以ナリ

以上述ヘタルカ如ク國務大臣ハ自己ノ手ニ尙モ國庫金ヲ留保スルコトヲ得ス又面接ニ現金ヲ以テ債主ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ時トシテハ之カ爲メ實際上ノ不便ナキヲ保セス是ヲ以テ會計法ハ法定ノ場合ニ於テハ主

任ノ官吏又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ支拂ヲ爲サシムルカ爲メ豫メ現金ノ前渡ヲ受クルコトヲ得ルモノトセリ
 國庫ノ法人格ハ特殊ノ法律ヲ以テ明規セラレタルモノニ非ス現行法ノ全般ヲ通シテ國庫ト稱スル意思主體ヲ認メタルヲ得サルニ過キサレナリ法人トシテ國庫ノ性質如何ハ民法上ノ問題ナリ茲ニ國家ノ會計ヲ論スルニ當リテハ予輩ハ唯國庫ハ國家ノ支拂命令書ニ依リテ現金ノ支拂ヲ爲スモノタルヲ知ルヲ以テ足ル然リ而シテ國庫金ヲ現實ニ取扱フモノハ日本銀行ナルコトハ嘗テ述ヘタル所ナリ

次ニ歲計剩餘定額繰越ヲ説明センニ國家ノ會計ハ必ス一年度ヲ以テ一期トスヘク他年度ニ於テハ更ニ會計ヲ更新スルモノナルヲ以テ各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキト雖モ直接ニ其目的ノ爲メ之ヲ次年度ニ繰越シ使用スルヲ得ス必ス其翌年度ノ一般歳入ニ繰入レサルヘカラス然レトモ(一)豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及ヒ(二)一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラスル事故ノ爲メニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシモノノ剩餘金

ハ必スシモ次年度ノ收入ニ繰入レシメス之ヲ繼續使用セシムルニ於テ支障ナク且實際上ノ便宜ニ應スルモノナリ故ニ會計法ハ此場合ニ於テ定期ノ繰越ヲ許セリ其他數年ヲ期シテ竣工ヘキ工事製造及ヒ其他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノニアリテモ毎年度ノ支拂殘額ヲ竣工年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ許セリ

政府ノ行フ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ往往ニシテ多額ノ金銭上ノ價值ヲ有スルコトアルヲ以テ之ニ依リテ得ヘキ利益ヲ四民ノ間ニ均等ナラシムルコトヲ要シ一私人ノ專占ニ歸セシムヘキニ非サルト同時ニ一方ニ於テ當局官吏ノ私曲ヲ行フコトヲ豫防セサルヘカラサルノ必要ヨリ別ニ法令ヲ以テ例外ヲ設定シタル場合及ヒ會計法第二十四條ニ掲ケタル場合ノ一ニ該當スル場合ノ外ハ公告シテ之ヲ競争ニ付セサルヘカラス此競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ行ハル入札ヲ行フニ際シテハ當該官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ開札ノ上入札中豫定價格ノ制限ニ達シタルモノアルトキハ之ヲ落札人トシ落札人トナルヘキ者數多アルトキハ再度ノ入札ヲ爲サシメテ之ヲ定メ

若シ豫定價格ノ制限ニ違セザル者ノミナルトキハ直チニ再度ノ入札ヲ行ハシ
 マ若シ尙ホ豫定價格ニ違セザルトキハ隨意契約ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ』
 次ニ出納官吏ノ責任ヲ述ヘンニ政府ニ屬スル現金若クハ物品ノ出納ヲ掌ル所
 ノ官吏ハ其現金若クハ物品ニ付キ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ
 受ケサルヘカラス出納官吏カ其保管スル所ノ現金若クハ物品ヲ紛失毀損シタ
 ル場合ニ於テハ其保管上避ケ得ヘカラザリシ事實ヲ検査院ニ證明シ責任解除
 ノ判決ヲ受タルニ非サレハ其負擔ヲ免ルルコトヲ得ザルナリ
 以上述ヘタル所ハ會計法明治二十二年二月法律第四號ノ綱要ナリ其細則ハ會
 計規則明治二十二年四月勅令第六十號ニ依リテ定マリ其例外ハ各種ノ法令ニ
 依リテ定マレリ此例外ノ主ナルモノハ(一)隨意契約ヲ爲シ得ル場合ニ關スルモ
 ノ(二)特別會計ニ關スルモノ是ナリ此特別會計ト稱スルハ一定ノ政府事業コリ
 生スル收入ヲ一般ノ會計ニ繰入レズシテ特ニ設定ヲ許シタル財團ニ繰入レシ
 メ之ヲ以テ直接ニ其事業費ヲ支出セシムルモノヲ謂フ詳細ハ作業會計法明治
 二十三年三月法律第十七號及ヒ官設鐵道會計法明治二十三年三月法律第二十

號ヲ參照スヘシ

第三節 國有財産

國有財産トハ國庫ニ於テ所有權ヲ有スル財産ノ總體ナリ而シテ國有財産モ亦
 其觀察點ヲ異ニスルニ從ヒテ種種ナル區分ヲ爲スコトヲ得然レトモ予輩ハ煩
 ヲ避ケテ最モ主要ナル分類ノミヲ掲ケ之ヲ説明スヘシ即チ收益財産及ヒ公用
 財産是ナリ

- (一) 收益財産 收益財産トハ收入ヲ得ルヲ主タル目的トスル財産ニシテ直接
 ニ公ノ目的ニ供用セラレザルモノナリ
- (二) 公用財産 公用財産トハ直接ニ公ノ目的ニ供用セララルル財産ニシテ其利
 益ヲ生スルコトアルモ主タル目的トシテ供用セラレザルモノニ非サルナリ』
 收益財産ハ或ハ之ヲ私産ト稱シ公用財産ハ或ハ公産ト名ク公産ハ更ニ區別シ
 テ營造物ト營造物ニ非サルモノトノ二ノ爲スコトヲ得營造物ノ何タルヤハ前
 編ニ於テ講述シタル所ナリ而シテ營造物ニ非サル財産ハ國家自ラ之ヲ公ノ目

的ニ專用スルモノニシテ例ヘハ軍艦砲臺城塞等ノ如キ之ニ屬ス國家カ私産ヲ取得スルニハ専ラ私法ノ規定ニ依リ公産ヲ取得スルニハ時トシテ公用徵收ヲ行フコトアリ又私産ノ管理ハ原則トシテ財務行政官廳ニ於テ之ニ任シ公産ノ管理ハ其供用セラレル目的ニ從ヒ各其主管行政官廳ニ於テ之ヲ爲スモノトス國有財産ノ管理及ヒ處分ニ關スル法令ハ官有財産管理規則官有地特別處分規則官有地取扱規則及ヒ國有林野法等ヲ以テ主要ナルモノトス官有財産管理規則ハ官有財産ノ管理ニ關スル一般ノ通則ヲ規定スルモノニシテ同規則ニ所謂官有財産ハ一切ノ動産不動産ヲ包含シ各主務大臣ニ於テ之ヲ管理スヘキモノトシ其賣拂讓渡貸付等ノ場合ヲ制限シ及ヒ其手續ヲ規定セリ國有林野法ハ官有財産中最モ主要ナル山林原野ノ管理及ヒ經營ニ關スル主管大臣タル農商務大臣ノ權限ヲ定メタリ其他ノ法令ハ孰レモ特定ノ場合ニ於テ官有財産管理規則ノ例外ヲ規定セルニ過キス

第四節 公債

起債ノ行爲ハ私法行爲ニ屬シ行政處分ニハ非ナルナリ公債ヲ起スニハ憲法第六十二條第二項ニ依リ帝國議會ノ協贊ヲ經ルコトヲ要ス公債ハ法律ニ依リテ之ヲ起スモ決シテ公債ノ性質ヲ變更セス公債法ハ法規ヲ定ムルモノニ非スシテ議會カ政府ノ起債行爲ニ協贊ヲ與フルノ形式タルニ過キス公債法ハ多クノ場合ニ於テ募集方法ニ關スル細目ヲ定ムルモノニシテ此細目ノ標準トスヘキハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例是ナリ而シテ此等ノ規定ハ固ヨリ命令ノ性質ナク唯契約ノ條件ヲ豫定スルニ止マルモノトス公債ヲ起ス場合ハ(一)箇年度内ノ收入ヲ以テ支出ニ充ツルコトヲ得サルトキ其支出ニ充ツルノ目的若シハ(二)箇年度内ノ收支相並行セザル爲メ其年度内ニ限リ一時繰替ノ目的ヲ以テ之ヲ起スモノニシテ通常公債ト云フハ唯前者ノミヲ指稱ス前者ハ議會ノ協贊ヲ要スルモ後者ハ之ヲ要スルコトナク大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲シ其目的ヲ達スルモノナリ尤モ此等短期ノ公債ヲ起シ得ルノ最多金額ニ付テハ帝國議會之カ協贊ヲ爲スモノトス公債ハ其之ヲ充用スル目的ニ依リ財政公債及ヒ起業公債ノ二ニ分ツコトヲ得

ハシ此等ノ區別ニ關シテハ前ニ述ヘタルヲ以テ茲ニ復ヒセヌ
公債償還ノ方法ハ一定ノ据置年限ヲ經過シタル後若干ノ年月以内ニ抽籤ノ方
法ヲ用ヒテ之ヲ償還スルモノトス但明治二十九年法律第五號國債證券買入償
却法ニ政府ハ毎年度國債費豫算定額内ニ於テ國債證券ヲ買入レ之カ償却ヲ爲
スヲ得ルコトヲ定メタリ

第五節 手数料

手数料トハ私人ノ利益ノ爲メニ國家カ或行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ又ハ營造
物ノ使用ニ對シテ其行爲又ハ使用ノ報償トシテ徵收スル資産ナリ
手数料ハ國家カ其收入ヲ得ル一ノ淵源タルノ點私人ノ資産ヲ強制シテ徵收ス
ルノ點及ヒ臣民タル身分ヲ必要ト爲サス國權ノ服從者ヨリ徵收スルノ點ニ於
テ租税ニ酷似セリ然レトモ兩者ノ間差異ナキニ非ス今其主要ナル點ヲ摘示ス
レハ左ノ如シ

(イ) 手数料ト租税トハ其新設及ヒ變更ノ手續ニ於テ差異アリ即チ憲法第六十

二條第一項ハ新ニ租税ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ム(ハシ)ト
規定セルニ拘ハラス同第二項カ但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料其ノ他ノ收納
金ハ前項ノ限ニ在ラスト定メタルニ依リテ明カナリ之ヲ形式上ノ差異ト爲ス
(ロ) 更ニ兩者ノ實質上ノ差點ヲ研究スルニ手数料ハ憲法ニ所謂報償ノ性質ヲ
有セナルヘカラサルニ反シ租税ハ此性質ヲ具備セサルナリ租税ヲ以テ人民カ
國家ヨリ受クル利益ニ對スル報償ナリト爲スノ說ハ近時財政學者ノ普ク否認
スル所ナリ元來國家カ租税ヲ徵收スルハ一般ノ支出ニ充ツルカ爲メノ目的ニ
シテ他ノ目的アルニ非ス從テ國家カ或私人ノ爲メニスル政務ノ費用若クハ或
私人カ特ニ利益ヲ受クル費用ノ如キハ之ヲ一般ノ人民ヨリ徵收シタル租税ヲ
以テ支辨スルコトハ人民ノ負擔ヲ均一ナラシムル所以ニ非サルヲ以テ此等特
定ノ利益ニ關シテハ特定ノ私人ヨリ其費用ヲ徵收スヘキハ條理ノ命スル所ニ
シテ此根據ニ依リ國家カ私人ヨリ徵收スル資産ハ所謂手数料タルナリ
(ハ) 此ノ如ク兩者ハ其形式及ヒ實質ニ於テ差異アリ隨テ手数料ヲ定ムル標準
モ亦租税ト同一タルヲ得ス即チ手数料ヲ定ムルニハ國家ノ行爲若クハ營造物

使用ノ費用ニ充當スルヲ以テ目的ト爲シ同時ニ其行爲又ハ其使用ニ依リテ私人カ受クル利益ニ相當スルコトヲ願ミサルヘカラス左レハ單ニ一般ニ收入ヲ得ルノ目的ヲ以テ或手續ニ依リ資産ヲ徵收スルハ手数料ニ非シテ一種ノ租稅タルノミ又私人ノ資力ノ厚薄ヲ量リ之ニ依リテ手数料ヲ定メントセハ手数料ハ其性質ヲ變シテ財産稅ノ一種ト爲ルヘシ

此ノ如ク手数料ノ徵收ハ特定人ヲ目的トスルノ結果其徵收方法モ亦租稅ノ一般徵收法ニ反シテ限定的徵收法ニ依ルヘキモノナリ詳言スレハ租稅ハ一般ノ人民ニ對シテ課稅ノ物件稅率等ヲ一定シテ普ク賦課スルヲ原則トスルモ手数料ハ國家ノ行爲又ハ營造物ノ使用ヲ求ムル特定人ニ限リテ之ヲ負擔セシムルナリ

以上子輩ハ手数料ノ性質ヲ略述シタルヲ以テ左ニ其區別ヲ説明スヘシ
(一) 公法上ノ手数料及ヒ私法上ノ手数料 公法上ノ手数料トハ私人カ國家ノ行爲ヲ求メ又ハ營造物ヲ使用スル場合ニ於テ其報償トシテ徵收スル手数料ニシテ私法上ノ手数料トハ人民ニ於テ財産權ノ主體タル國家ノ行爲ヲ要求

シ又ハ財産權ノ主體タル國家ノ收益財産ヲ使用スルニ因リテ支拂フ對價ナリ故ニ後者ハ純然タル契約ニ依リテ成立スルモノニシテ行政上ノ手数料ニ屬セス

(二) 狹義ノ手数料及ヒ使用料 單ニ手数料ト云フトキハ一般ニ使用料ヲ包含セシムルモ更ニ之ヲ區別スルトキハ狹義ノ手数料及ヒ使用料ト爲スコトヲ得ヘシ前者ハ國家ノ行爲ニ對スル報償ニシテ更ニ行政上ノ手数料及ヒ司法上ノ手数料ノニニ分ツ行政上ノ手数料トハ行政ノ範圍ニ存在スル手数料ニシテ司法上ノ手数料トハ司法ノ範圍ニ存在スル手数料ナリ又使用料トハ營造物使用ニ對スル報償ナルコト前ニ述ヘタルカ如シ

終ニ手数料ノ徵收方法ヲ論スヘシ
手数料ノ徵收方法ハ之ヲ大別シテ直接徵收法及ヒ間接徵收法ノ二ト爲スコトヲ得直接徵收法トハ當該官廳ヲシテ人民ヨリ直接ニ金錢ヲ以テ徵收スル方法ニシテ間接徵收法トハ印紙ヲ貼用セシメ以テ間接ニ徵收スル方法ナリ我現行法ハ主トシテ第二ノ方法ヲ採用セリ

第六節 租稅

租稅トハ國家ノ政務ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ無償且強制的ニ徵收スル資産ナリ

租稅ハ政務ノ費用ニ充ツルカ爲メニ國家ニ於テ何等ノ反對給付ヲ爲スコトナクシテ其國權ニ服從スル者ヨリ徵收スル資産ナリ而シテ其公用徵收及ヒ徵發ト異ナル所ハ前ニ説明シタリ租稅ハ此ノ如キ性質ヲ有スルニ拘ハラヌ或ハ之ヲ以テ國家ノ保護ニ對スル報酬ナリト論シ或ハ身體財產ニ對スル保險料ナリト解スル學者之ナキニ非ス此等ノ說タル一時大ニ行ハレタルモノニシテ國家ノ行爲ヲ總テ私法的觀念ヲ以テ説明セントシタル時代ニ於テ生シタルモノトス然レトモ此說ニ從フトキハ最も多ク國家ノ救助ヲ受クル貧民ノ如キハ理論上最も多額ノ租稅ヲ負擔スヘク又他人ニ傷害セラレ又ハ他人ヨリ財產ヲ奪ハレタル者ニ對シテハ國家ハ免稅スヘキ義務アリトノ決論ニ達セザルヲ得サルニ至ルヘシ此ノ如キハ獨リ現行法ノ觀念ト相容レザルノミナラス國家ノ觀念

ニ於テ業ニ既ニ根本的ノ誤謬ニ陥レルモノナリ

租稅ノ性質ニ付テ注意スヘキハ納稅ハ法律上ノ義務ナルコト是ナリ近世ノ國家ハ種種ナル沿革上ノ理由ニ依リ租稅ヲ賦課スルニハ最も慎重ナル手續ヲ要シ以テ公正ヲ得ントラ努ム我帝國憲法ニ於テモ亦其第二十一條ニ於テ納稅義務ノ範圍ハ總テ法律ノ規定スル所ニ準據スヘク行政官ノ隨意ニ變更スルコトヲ得タルモノト爲セリ

此ノ如キ性質ヲ有スル租稅ハ如何ニ之ヲ區別スルコトヲ得ルヤト云フニ是レ亦其觀察點ノ異ナルニ從ヒテ種種ナル區別ヲ試ムルコトヲ得ヘシ然レトモ煩ヲ避ケ左ニ其重要ナル三區分ニ付キ略說セントス

(一) 分配稅及ヒ定率稅 此區別ハ租稅賦課ノ方法ニ依ル區別ニシテ前者ハ各年度ニ於テ必要ナル收入ノ總額ヲ地方團體ニ割充テ地方團體ハ更ニ之ヲ住民ニ割付ケテ徵收スル租稅ナリ後者ハ之ニ反シ豫メ法律ヲ以テ課稅ノ物件、稅率等ヲ定メ各年度ノ必要ナル總收入額ノ如何ニ拘ハラヌ法律ノ活動ニ委シテ納稅ノ主體ヨリ徵收スル租稅ナリ

(一) 内國稅及ハ關稅 此區別ハ課稅物件ノ存在ニ依リテ爲シタルモノナリ内國稅トハ國境内ニ存在スル物件ヲ目的トシテ賦課スルモノニシテ關稅トハ國境ヲ出入スル物件ヲ目的トシテ賦課スルモノナリ前者ハ更ニ分チテ國稅及ヒ地方稅ノ二ト爲シ地方稅ハ更ニ府縣稅及ヒ市町村稅等ニ分ツコトヲ得而シテ國稅ハ國家一般ノ費用ニ充ツル目的ヲ以テ徵收スル租稅ナレハ全國ニ通シテ之ヲ賦課スルヲ常トシ地方稅ハ一定地域内ノ政務ノ費用ヲ支辨スルノ目的ヲ以テ地方團體ニ於テ徵收スル租稅ナレハ其地方ノ住民ニ賦課スルモノナリ茲ニ注意スヘキハ國稅中一般ノ費用ヲ支辨スル目的ヲ有スルモノ一地方ヲ限リテ賦課スル租稅アルコト是ナリ之ヲ限地稅ト稱ス例ヘハ沖繩縣酒類出港稅北海道水產稅ノ如キ之ニ屬ス

(二) 直接稅及ヒ間接稅 此兩者ノ財政學上ニ於ケル意義ハ諸子カ該講座ニ於テ學得セラレタル所ナルモ行政法上ノ意義ハ必スシモ財政學上ノ學說ト一致スルモノニ非ス行政法上ニ於テ直接稅トハ財產收入又ハ人ノ身分ノ如キ立法者カ不動ナルモノト認メテ豫メ調査スルコトヲ得ル事實ニ基キ臺帳ニ

依リテ課稅スルコトヲ得ル種類ノ租稅ニシテ間接稅トハ永續セザル物件又ハ行爲ノ如キ豫測スルコトヲ得ザル事實ニ對シテ其事實ノ發生スル毎ニ隨時課稅スル種類ノ租稅ナリ我現行法ニ於テハ命令ヲ以テ直接稅ノ範圍ヲ定メ地租所得稅及ヒ營業稅ノ三トシ其他ヲ間接稅ト爲セルヲ以テ實質上ヨリ其區別ヲ論スル必要ナシトス

予輩ハ以上ノ說明ヲ以テ租稅ノ重要ナル論理上ノ區別ヲ講了シタルヲ以テ更ニ進ミテ租稅法規ノ骨子トモ云フヘキ納稅主體課稅物件及ヒ稅率ノ三者ニ付テ略述スヘシ

(一) 納稅主體 租稅ノ轉嫁ハ財政學ニ於テハ頗ル困難ナル問題ナリト雖モ行政法上ニ於テハ之ニ論及スルノ限ニ在ラス行政法上ニ於テ納稅主體トハ國家若クハ公共團體ニ對シテ直接ニ租稅ヲ納ムル者ヲ意味シ結局何人カ租稅ヲ負擔スルヤハ行政法ノ間ヲ所ニ非ザルナリ

(二) 課稅物體 課稅物體トハ法律上課稅ノ標準トシテ選擇セラルル所ノ事物件ナリ此目的ハ物タルコトアリ行爲タルコトアリ例セハ地租ノ課稅物體ハ土

地ニシテ所得稅ノ課稅物件ハ所得ナリ故ニ此等ハ皆物ヲ目的ト爲ス然レトモ營業稅カ營業ヲ目的トシテ課稅シ酒造稅カ釀造ヲ目的トシテ課稅スルカ如キハ行爲ヲ目的ト爲スモノナリ

(三) 稅率 稅率トハ課稅物件ノ單位ニ對シ租稅ヲ賦課スル比率ナリ此ノ如ク納稅ノ主體物件及ヒ之ニ課スヘキ稅率定マルトキハ茲ニ納稅義務ハ確定スヘキモノトス

次ニ說明スヘキハ租稅徵收ノ方法ナリ

租稅ノ徵收ノ方法モ亦手數料ノ徵收ト同シク之ヲ二箇ニ區別スルコトヲ得直接法及ヒ間接法是ナリ直接法トハ特定ノ行政處分ヲ以テ徵收スル方法ヲ謂ヒ間接法トハ印紙貼用ノ方法ニ依ルモノナリ或ハ專賣法ナル方法ヲ以テ納稅方法ノ一ニ數フル者アリト雖モ國家ノ專賣行爲ナルモノハ課稅ニ比シ全ク形式ヲ異ニスル國家行爲ナレハ之ヲ以テ徵稅法ノ一ト爲スハ普理タルヲ免レス所謂特別ノ行政處分ニ依ル徵收方法ハ通常納稅告知書又ハ納稅傳令書ニ依リテ之ヲ爲スモノトス此處分ハ嘗テ說明シタルカ如ク(第一編第五章第三節第一款

處分令ノ性質ヲ參照セヨ)新ニ義務ヲ發生セシムルモノニ非スシテ既ニ發生セル義務ノ範圍ヲ定メ履行ニ關スル特定ノ時ト特定ノ場所トヲ指定スルニ過キス又間接法ニ依ルモノハ國家カ或特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテ印紙ノ貼用ヲ命スルニ在リ故ニ此場合ニ於ケル納稅義務者ハ印紙ノ貼用ヲ要スル行爲ヲ爲ス者ニシテ納稅ノ手段ハ印紙ノ貼用ニ外ナラス

直接法ニ依ル納稅ハ滯納アルトキハ強制執行ノ方法即チ所謂滯納處分ニ依リテ之ヲ強制スルヲ常例トス而シテ其方法ノ概要ハ嘗テ述ヘタル所ナリ又間接法ニ依ル納稅ヲ怠リタルトキハ通例刑罰ニ處セラルルモノトス

直接法ニ依ル納稅義務ハ其租稅ヲ支拂ヒタルトキ滯納處分ヲ終了シタルトキ及ヒ時效ニ因リテ消滅スルモノトス而シテ最後ノ場合ニ於テ納稅義務ノ消滅スルニハ二種ノ區別アルヲ見ル其一ハ納稅告知書ヲ發セサルカ爲メニ時效ニ體ルモノニシテ其二ハ納稅告知書ヲ發セラレタル後納稅セサルニ因リテ時效ニ體ルモノナリ而シテ此時效ハ第一ノ場合ニ於テハ納稅告知書ヲ發スルニ因リ第二ノ場合ニ於テハ徵收ノ手續ヲ爲スニ因リ中斷セラルルモノトス又間接

法ニ依ル納稅義務ハ印紙ノ貼用法ニ特別ノ規定アルトキハ時効ニ因リテ消滅スルモノトス

第八章 臺灣ノ行政

第一 行政ノ組織

臺灣總督ハ臺灣行政ノ全體ニ涉リテ其長官タリ此資格ニ於テハ內務大臣ノ監督ヲ受ク但軍政及ヒ陸海軍人軍屬ノ人事ニ關シテハ陸軍大臣若クハ海軍大臣ノ區處ヲ受ク又臺灣ニ於テ内地ニ在リテハ各省大臣ノ管掌スヘキ事務ヲ處理ス而シテ此處理ニ關シテハ軍務行政ニ關シテ陸海軍大臣ノ區處ヲ受クルノ外單ニ內務大臣ノ指揮ニ服スルノミナリ臺灣總督ノ行政上ノ補助機關ハ民政長官參事官長事務官參事官トシ別ニ評議會ナル議決機關アルコトハ總則中ニ之ヲ述ヘタリ

臺灣ヲ二十箇ノ廳ニ分チ各廳ニハ廳長ヲ置キ地方長官トシ部内ノ行政事務ヲ管理セシム廳ハ一面ニ於テハ行政區畫タルト同時ニ他方ニ於テハ恰モ内地府

縣制施行以前ノ府縣ノ如ク一箇ノ獨立財團ヲ爲シ徵稅ノ權ヲ有スル公法人タルモノトス即チ明治三十一年七月律令第十七條臺灣地方稅規則ハ地方長官ニ地方稅課ノ權能ヲ與ヘ(一)地租附加稅(二)家稅(三)營業稅(四)雜種稅ノ一又ハ一以上ヲ徵收シ得ルモノトシ此等ノ地方稅ヲ以テ警察土木衛生教育其他ノ費用ヲ支辨スヘキモノトセルヲ以テ明カナリ此等ノ收入及ヒ支出ハ共ニ地方團體トシテノ收支ナレハ國ニハ關係ナク行ハルモノナリ其結果トシテ憲法第六十四條ノ支配ヲ受ケタルモノトス廳ノ下ニハ街庄社アリ此等ハ單純ナル行政區畫トシテ中央及ヒ廳ノ行政ヲ施行スルモノトス

臺灣ノ地方特別官廳ノ主要ナルモノハ稅關海港檢疫所等ニシテ官署トシテハ糖務局鹽務局樟腦局等アリ臺灣ニハ稅務管理局ナクシテ稅務ハ地方長官之ヲ管掌ス臺灣ノ官吏ニ關スル法制ハ内地ニ於ケルト大體ニ於テ異ナルコトナキモ任用ノ點ニ於テハ多少ノ特別アリ又俸給ニ關シテハ別ニ勅令ノ規定アリテ勤務年數ニ應シテ加俸ヲ受ケシムルノ制アリ恩給ニ關シテモ勤務年數及ヒ特別恩給權發生ニ關スル特別ヲ設ケラレタリ

第二 内務行政

内務行政中警察行政ハ内地ニ於ケルヨリモ遙ニ嚴峻ナリ是レ内地人ノ臺灣ニ渡航スル者ノ中ニハ恆産ナキ冒險家或ハ投機的企業ヲ事トスル輩多ク慥悍無頼ノ徒亦少カラサルノミナラス生蕃ハ勿論熟蕃又ハ土人ト雖モ尙ホ王化ニ服セサル者アルヲ以テナリ保安警察ノ法規中顯著ナルモノヲ匪徒刑罰令及ヒ保安規則等トス其他勞働者取締銃砲火藥取締新聞紙取締等其規定ノ内容内地ニ比シテ嚴峻ナラサルハナシ此等ノ法規ハ何レモ律令ヲ以テ規定セラレタリ

其他臺灣ニ特有ナル警察制度ヲ保甲制度トス明治三十一年八月律令第二十一號此制度ハ隣保相警戒シテ法制ヲ侵ササラシムルモノニシテ同地ノ舊慣ニ基キテ立テラレタルモノトス即チ保及ヒ甲ノ人民ハ各其規約ヲ定メ其秩序ヲ保持セサルヘカラス而シテ保又ハ甲ノ中犯罪人ヲ出ストキハ其保又ハ甲ノ人民ヲシテ各連座ノ責任ヲ有セシメ其連座者ハ罰金若クハ科料ニ處セラル保及ヒ甲ニハ匪賊竝ニ水火災ノ警戒防禦ノ爲メ壯丁團ヲ置キ自治警察ヲ行フコトヲ許サル

阿片ニ關スル警察行政ノ方針ハ阿片ヲ政府ノ專賣物件トシ阿片煙ニ關スル營業ヲ特許シ一般ノ土民ニ對シテモ原則トシテ阿片煙ヲ吸食スルコトヲ禁シ唯阿片煙ニ陥リタリト認ムル者ニ限リ阿片煙膏ノ購買及ヒ吸食ヲ特許シ鑑札ヲ付與ス人民ニシテ蓋ニ阿片煙膏ヲ輸入製造シタルトキ及ヒ特許ヲ得シテ營業ヲ爲シタル者及ヒ鑑札ヲ有セサル者ニ阿片煙膏ヲ授與シタルトキハ各重刑ニ處セラルヘキモノトセリ其他阿片令明治三十年一月律令第二號ハ阿片警察ニ關シテ嚴密ナル規定ヲ設ケタリ

助長事務中地籍及ヒ人籍ノ調査ハ既ニ之ニ著手セリ特ニ地籍ノ調査ニ關シテハ明治三十一年八月勅令第二百一號ヲ以テ臨時臺灣土地調查局ヲ置キ地籍調査及ヒ土地臺帳竝ニ地圖調製ニ關スル事務ヲ掌理セシメタリ臺灣ニ於テハ素ト土地私有ノ觀念ナク土地ハ王土ナリ私スヘカラストノ主義行ハレタリシヲ以テ臺灣ニテ土地ノ所有者ニ準スル者ヲ業主ト謂フ將來土地私有ヲ認ムルニ際シ及ヒ正式ノ地租ヲ徵收スルノ準備トシテ豫メ之カ調査ヲ完了スルノ必要アルヲ以テナリ貨幣及ヒ度量衡ハ清治ノ頃ヨリ非常ノ紊亂ヲ極メタルモ貨幣

ニ在リテハ稅近帝國ノ貨幣及ヒ兌換券ノ信用大ニ擴張セラレ又度量衡ニ付テハ特ニ律令ヲ以テ内地ト同様ノ制ヲ立テ之カ畫一ヲ圖レリ其他經濟及ヒ教化ニ關スル法制ノ說明ハ之ヲ省略ス臺灣ニ於ケル内務行政ハ内地ニ於ケルト異ナリ言語風俗ノ異ナル數多ノ民族ニ對シテ行ハルルモノナルヲ以テ其警察行政ハ唯敏活敏捷ヲ要スルノミナルモ助長行政ニ至リテハ伸縮自在機宜ニ應シテ克ク其目的ヲ收メサルヘカラス開レハ法治行政ニ依ルヨリモ寧ロ事實タル行政ノ範圍最モ其廣キヲ占ムルモノトス

第三 法務行政

臺灣ニ於ケル裁判ノ事務ハ明治三十一年七月律令第十六號ヲ以テ規定セラレタリ臺灣總督府法院之ヲ行フ法院ヲ分チテ地方法院及ヒ覆審法院ノ二ト爲シ其ニ臺灣總督ニ直屬スル地方法院ハ其管轄區域内ニ於ケル民事刑事ノ第一審裁判及ヒ刑事ノ豫審ヲ爲シ覆審法院ハ總督府所在地ニ一箇所ヲ置キ各地方法院ノ裁判ヲ覆審ス又各法院ニ檢察局ヲ附置シ法院及ヒ檢察局ニハ判官及ヒ檢察官ヲ設ク地方法院ハ單獨判官ヲ以テ總テノ事件ヲ審問裁判シ覆審法院ニハ一

若クハ二以上ノ部ヲ置キ合議制ヲ以テ事件ヲ審問裁判ス此他判官ノ分限ハ大要内地ニ同シキモ總督ノ任意ニ休職ヲ命セラルルコトアリ檢察官ノ分限ニ付テハ別段ノ規定ナシ

以上ノ外臺灣總督ハ明治二十九年七月律令第二號ニ依リ法定ノ非常ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時法院ヲ便宜ノ場所ニ開設シテ普通ノ裁判管轄ニ拘ハラズ開設シ一審終審ノ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得又監獄ニ關シテハ明治三十二年二月律令第三號臺灣監獄則ヲ以テ内地監獄則ノ特例ヲ規定セリ

第四 軍務行政

臺灣總督ハ半面ニ於テ軍人トシテ天皇ノ統帥大權ヲ實行ス軍務行政官トシテハ陸軍大臣ノ區處ヲ承クルコトハ前ニ之ヲ述ヘタリ軍人トシテ總督ハ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ防禦作戰並ニ動員計畫ニ關シテハ參謀總長若クハ海軍軍令部長ノ區處ヲ承クヘキモノトス此資格ニ於ケル總督ノ補助機關ヲ臺灣總督府陸海軍幕僚明治三十年十月勅令第三百六十三號第三百六十四號トス臺灣ノ衛戍ハ臺灣守備混成旅團ナリ旅團長ハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ總督

ニ 蘇屬セシム
 臺灣ニハ 徵兵ノ 行政ナシ 是レ 臺灣ニハ 未タ 内地人ノ 本籍ヲ 移スコトヲ 許サレ
 ナルニ 依ルナリ 臺灣ニ 駐劄スル 陸軍部隊ノ 給與ニ 關シテハ 特別ノ 制アリ 又 陸
 海軍人ノ 恩給ニ 付テモ 文官ト 同シク 特別ノ 設アリ

第五 財務行政

臺灣ハ 特別ノ 會計ニ シテ 國庫ノ 下付金 及ヒ 臺灣全島ヨリ スル 收入ヲ 以テ 其 經
 費ヲ 支辨スルモノト ス 會計法ハ 明治二十九年五月勅令第百六十七號ヲ 以テ 臺
 灣ニ 施行セラレタリ
 内地ノ 税法ハ 一ノ 例外ヲ 除クノ 外 臺灣ニ 施行セラレ ス 臺灣ノ 税法ハ 總テ 律
 令ヲ 以テ 規定セラレ 又 特ニ 阿片 食鹽 及ヒ 樟腦 樟腦油ノ 專賣制度アリ 共ニ 律令
 ヲ 以テ 規定セラル
 以上ハ 臺灣ノ 行政ノ 梗概ヲ 揭ケタルノ ミ 若シ 其 詳細ヲ 舉ケ 來レハ 殆ト 内地ノ
 行政各部ニ 準スヘキ 條目アリ 之ニ 付テ 一之カ 說明ヲ 下スモ 格段ノ 利益少キ
 ヲ 以テ 之ヲ 略ス

予 輩ハ 茲ニ 臺灣ノ 行政ノ 章ヲ 以テ 本學年ノ 講義ヲ 終ラント スルニ 蔭ミ 一言ス
 ヘキハ 行政ノ 各論ハ 其 範圍 極メテ 廣汎ニ シテ 一ノ 法文ノ 各條項ニ 就キ 之カ 說
 明ヲ 下スヲ 得ス 是レ 其 大綱ヲ 陳フルノ 已ムヲ 得タル 所以ナリ 願ハクハ 諸子自
 ラ 法令ニ 就キ 其 細目ニ 亘ル 研究ヲ 遂ケラ レンコトヲ

行政法 終

行政法 實講述

三四一

行政法 實講述 岡本 武久 著 三十五年長崎義塾 發行

法學士岡

實講述

行政法

(三十五年長崎義塾)

和佛法律學校發行

行政法目次

緒論	一
第一編 總論	九
第一章 法ノ觀念	九
第一節 法ノ成立	九
第二節 法ノ實質	一二
第三節 法ノ形式	一五
第二章 公法	二七
第三章 公權	三三
第一節 權利	三三
第二節 公權ノ性質	四〇
第三節 公權ノ分類	四四
第四章 行政法	五二

第五章 行政ノ手段(行政ノ形式)

第一節 法規

第二節 處分令

第一款 處分令ノ性質

第二款 處分令ノ種類

第三節 契約

第四節 行爲

第五節 刑罰及ヒ強制手段

第一款 刑罰

第二款 強制手段

第六章 行政上ノ救濟手段

第一節 總論

第二款 行政訴訟

第一款 性質

第二款 現行ノ行政訴訟

第三節 行政訴訟

第一款 性質

第二款 現行ノ行政訴訟

第二編 行政ノ組織

第一章 總論

第二章 官廳

第一節 官制

第二節 官廳ノ性質

第三節 官廳ノ種類

第四節 官廳ノ監督

第五節 官廳ノ權限爭議

第三章 官吏

第一節 官吏ノ性質

第二節 官吏ノ種類……………一七一

第三節 官吏ノ權利義務……………一七六

第一款 官吏ノ權利……………一七六

第二款 官吏ノ義務……………一八五

第四節 官吏ノ責任……………二〇六

第一款 公法上ノ責任……………二〇六

第二款 私法上ノ責任……………二〇九

第四章 公共團體……………二一六

第一節 公共團體ヲ創設スル法規……………二一六

第二節 公共團體ノ性質……………二一八

第三節 公共團體ノ自治……………二二二

第四節 公共團體ノ機關……………二二七

第五節 公共團體ノ監督……………二二九

第六節 公共團體ノ種類……………二三二

第七節 普通公共團體……………二三五

第一款 市町村……………二三五

第一項 市町村ノ組織……………二三六

第二項 市町村ノ機關……………二三八

第三項 市町村ノ自治……………二四四

第四項 市町村ノ監督……………二五六

第五項 市町村内ノ區及ヒ町村組合……………二五九

第二款 郡……………二六四

第一項 郡ノ組織……………二六五

第二項 郡ノ機關……………二六六

第三項 郡ノ自治……………二六九

第四項 郡ノ監督……………二七〇

第三款 府縣……………二七〇

第一項 府縣ノ組織……………二七一

第二項 府縣ノ機關……………二七二

第三項 府縣ノ自治……………二七二

第四項 府縣ノ監督……………二七二

第四款 北海道沖繩縣及ヒ臺灣ニ於ケル自治體……………二七三

第一項 北海道ニ於ケル自治體……………二七三

第二項 沖繩縣ニ於ケル自治體……………二七五

第三項 臺灣ニ於ケル自治體……………二七六

第八節 特別公共團體……………二七七

第一款 水利組合……………二七七

第一項 水利組合ノ組織……………二七八

第二項 水利組合ノ機關……………二七九

第三項 水利組合ノ自治……………二八〇

第四項 水利組合ノ監督……………二八〇

第二款 一部町村組合及ヒ郡組合……………二八一

第五章 公益團體

二八一

第一節 公益團體ノ性質……………二八二

二八二

第二節 公益團體ノ種類……………二八四

二八四

第一款 商業會議所……………二八七

二八七

第二款 重要物產同業組合……………二八七

二八七

第三款 產牛馬組合……………二八八

二八八

第四款 農會……………二八八

二八八

第六章 營造物

二八九

第一節 營造物ノ性質……………二八九

二八九

第二節 營造物ノ種類……………二九四

二九四

第三編 行政法各論

二九六

第一章 總論

二九六

第二章 內務行政

三〇〇

第一節 警察行政……………三〇一

三〇一

第一節 警察行政ノ性質……………三〇一

第二款 警察行政ノ根據……………三〇六

第三款 警察行政ノ種類……………三一六

第四款 保安警察……………三一九

第一項 總論……………三一九

第二項 居住移轉ノ自由ニ關スル法規……………三二四

第三項 身體ノ自由ニ關スル法規……………三二七

第四項 住所ノ自由ニ關スル法規……………三三〇

第五項 信書ノ自由ニ關スル法規……………三三〇

第六項 所有權ノ自由ニ關スル法規……………三三一

第七項 信教ノ自由ニ關スル法規……………三三一

第八項 言論著作、印行、集會及ヒ結社ニ關スル法規……………三三三

第九項 保安警察ニ關スル其他ノ法規……………三四二

第十項 保安警察ノ機關……………三四六

第二節 助長行政……………三四九

第一款 總論……………三四九

第二款 人事ニ關スル規定……………三五二

第三款 國籍ニ關スル規定……………三五二

第四款 身分戶籍ニ關スル規定……………三五六

第五款 衛生ニ關スル法規……………三五九

第六款 保健ニ關スル規定……………三六〇

第七款 醫藥ニ關スル規定……………三六六

第八款 經濟ニ關スル法規……………三七〇

第九款 原始産業ニ關スル法規……………三七〇

第十款 商工業ニ關スル法規……………三七九

第十一款 土地森林原野ニ關スル法規……………三八六

第十二款 度量衡及ヒ貨幣ニ關スル法規……………三九二

第五項 交通ニ關スル法規……………三九四

第六項 土木ニ關スル法規……………四〇五

第七項 産業團體ニ關スル法規……………四〇八

第五款 教化ニ關スル法規……………四一一

 第一項 教育ニ關スル規定……………四一一

 第二項 著作權保護ニ關スル規定……………四二六

 第三項 宗教ニ關スル規定……………四二九

 第四項 古社寺ニ關スル保存規定……………四三五

 第六款 恤救ニ關スル行政……………四三七

第三章 外務行政……………四四一

第四章 院務行政……………四五〇

 第一節 衆議院ノ構成ニ關スル行政……………四五二

 第二節 貴族院ノ構成ニ關スル行政……………四五七

 第三節 議院内部ノ行政……………四六〇

第五章 法務行政……………四六三

 第一節 裁判所ノ構成ニ關スル行政……………四六四

 第二節 裁判所内部ノ行政……………四六八

 第三節 裁判ノ執行ニ關スル行政……………四七二

第六章 軍務行政……………四七七

 第一節 軍事負擔……………四八五

 第二節 兵役……………四九四

 第三節 戰時戒嚴……………五〇三

 第四節 其他ノ軍務行政事項……………五〇六

第七章 財務行政……………五〇七

 第一節 豫算及ヒ決算……………五〇八

 第二節 會計……………五一五

 第三節 國有財産……………五二一

 第四節 公債……………五二二

第五節 手数料……………五二四

第六節 租税……………五二八

第八章 臺灣ノ行政……………五三四

行政法目次 終

取籍ヲ得スルモノトスレトモ獨、埃、匈、葡、瑞、典、那、威、等ニ於テハ羅馬法ノ原則ニ從
 ヒ私生子ハ常ニ母ノ國籍ヲ取得スルモノトシ父ノ認知ハ子ノ國籍ニ何等ノ影
 響ヲ及ボササルモノトスルカ故ニ此等ノ諸國ニ屬スル外國人タル私生子カ日
 本人タル父ニ依リテ認知セラレタルトキハ其子ハ我國籍法第五條第六條及ヒ
 第二十三條ニ依リテ我國籍ヲ取得スルモ其本國ニ於テハ尙ホ絶對的ニ母ノ國
 籍ヲ取得ス隨テ此場合ニモ亦三國ノ國籍相抵觸スヘシ又例ヘハ伊、西、蘭、白、希、等
 ノ諸國ニ於テハ父カ認知シタルトキハ時ノ前後ヲ論セス常ニ父ノ國籍ヲ取得
 スルモノトス然ルニ我國及ヒ佛國ニ於テハ父及ヒ母カ時ヲ異ニシテ認知シタ
 ルトキハ先ヅ認知シタル者ノ國籍ヲ取得スルモノトス故ニ若シ日本人タル母
 カ私生子ヲ認知シタルトキ其後ニ至リ父タル伊太利人カ認知スルトキハ其子
 ハ伊國民法第四條ニ依リ父ノ國籍タル伊國籍ヲ取得スルモ我國籍法第六條ニ
 依レハ其子ハ母ノ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘシ隨テ茲ニ國籍ノ抵觸
 ヲ生ス

(四) 養子 外國人カ日本人ノ養子ト爲リタルトキハ當然我國籍ヲ取得ス然ル

ニ外國ニ於テハ我國ニ於ケルカ如キ養子制度ヲ認メサルヲ以テ他國人ノ養子ト爲リタルカ爲メニ其國籍ヲ失フモノトスル國ハ全ク絶無ニシテ最モ多クノ國ニ於テハ獨逸國籍法第二條ノ如ク他國人ノ養子ト爲ルモ其本國籍ヲ喪失セサルモノト明言セリ隨テ日本人ノ養子ト爲ル外國人ハ本國ヨリ脱籍ノ許可ヲ得ナル限ハ猶ホ本國ノ國籍ヲ保有スルモノトス故ニ此場合ニモ亦二箇ノ國籍ヲ有スルニ至ルヘシ

(五) 歸化 一般ノ歸化ニ付テハ我國籍法ハ先ツ其本國ノ國籍ヲ喪失スルコトヲ必要條件トシタルヲ以テ我國ニ歸化スル者ハ必ス其本國籍ヲ喪失スルモノナレハ茲ニ國籍ノ抵觸ヲ生スルコトナシトス唯特別ノ場合即チ國籍法第十一條ニ規定セル特別ノ功勞アル外國人カ歸化ヲ許サル場合ニハ國籍ノ抵觸ヲ生スルコトアルヘシ何トナレハ此場合ノ歸化ハ外國ノ國籍喪失ヲ必要條件トセサレハナリ

以上ヲ以テ積極的國籍抵觸ノ重ナル場合ヲ説明セリ以下消極的抵觸ノ重ナル場合ヲ説明スヘシ

第二項 消極的國籍抵觸ノ原因

我國籍法ハ力メテ消極的國籍抵觸ノ發生ヲ豫防シタルヲ以テ多クノ場合ニ於テハ起リ得サレトモ尙ホ左ノ場合ニハ此抵觸ヲ生スルコトアリトス

(一) 國籍法第十八條ニ依レハ日本ノ女カ外國人ト婚姻シタル場合ニハ絕對的ニ我國籍ヲ失フモノトス隨テ若シ日本ノ女カ國籍ヲ有セサル外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ其女ハ無國籍人ト爲ルヘシ(伊佛葡墨等ノ諸國ニ於テハ斯ル場合ヲ豫防センカ爲メ妻カ夫ノ國籍ヲ取得セザルトキハ本國籍ヲ喪失セザルモノトセリ我國籍法ニ此制限ヲ設ケザリシハ一缺點ナリト謂フヘシ)

(二) 南米諸國和蘭(アルトメニヤ)等ニ於テハ內國人ニ嫁シタル外國人タル女ハ婚姻ニ因リテ必スシモ當然夫ノ國籍ヲ取得スルコトヲ認メサルナリ故ニ斯ル國ノ男子ト婚姻シタル日本ノ女子ハ前ノ場合ト同シク孰レノ國籍ヲモ有セザル者ト爲ルヘシ是レ我立法者カ國籍法第十八條ヲ規定スルニ當リ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハト云フ制限ヲ附スルコトヲ忘レタル結果ナリ

(三) 外國人カ其本國政府ノ許可ナクシテ我國ノ公務ニ從事セル場合ニ於テ若シ其本國法ニ於テ斯ル場合ニ其本國籍ヲ失フモノトセルトキハ我國ニ於テ無國籍人ト爲ルヘシ

(四) 我國ノ臣民カ他國ニ歸化シタル後我國ニ住居ヲ定メタルニ因リ其歸化國ヨリ歸化ヲ拋棄シタルモノト認メラレタル場合ニ於テ未タ我國ノ國籍ヲ回復スル手續ヲ爲ササルトキハ同シク無國籍人ヲ生スヘシ

第一款 國籍ノ抵觸ニ適用スヘキ原則

甲 積極的抵觸ニ適用スヘキ原則

國籍ノ抵觸アル場合ニ何レノ國籍ヲ以テ其者ノ本國ヲ定ムヘキヤノ問題ハ特リ司法上ニ於テ必要ナルノミナラス行政上及ヒ外交上ニ於テモ亦極メテ必要ノ事ニ屬ス特ニ外交上ニ於テハ之カ爲メ屢々國際上ノ紛議ヲ醸スコトアルヲ以テ斯ル抵觸問題ニ適用スヘキ原則ヲ考究スルコト極メテ必要ナリトス今此問題ヲ解決スル前ニ注意スヘキコトハ國籍ノ有無ニ關スル規定ハ唯リ其箇人ノ

私益ニ關スルノミナラス國家ノ公益即チ所謂國際公益ニ關スル規定ニシテ內國人タルト外國人タルトヲ問ハス絕對的ニ適用セラシムヘキ規定ナルコト是ナリ隨テ苟モ我國籍法ノ規定ニ依リ日本ノ國籍ヲ有スル者ハ皆日本人ニシテ日本人タルノ權利ヲ有シ義務ヲ負フヘキモノナリ故ニ其者カ或外國ノ法律ニ從ヒ外國ノ國籍ヲ有スルト否トヲ問フコトヲ要セザルナリ即チ一人ニシテ若シ日本ノ國籍ト外國ノ國籍トヲ併有セル場合ニハ常ニ日本ノ國籍法ニ依リテ其者ノ國籍ヲ定メザルヘカラス此原則ハ法例第二十七條第一項ニ認メタル所ニシテ同規定ニ依レハ如何ナル場合ニ於テモ二箇以上ノ國籍ノ一カ日本ノ國籍ナルトキハ常ニ我國籍ヲ以テ其者ノ本國法ヲ定ムヘキモノトセリ

以上ノ原則ヲ基礎トシ左ニ其適用ヲ生來ノ國籍抵觸ト傳來ノ國籍抵觸トニ區別シテ之ヲ説明セントス

(A) 生來ノ國籍ノ抵觸 生來ノ國籍抵觸ニ付テ若シ其一カ日本ノ國籍ナルトキハ法例第二十七條第一項ノ原則ニ依リ日本人タルコト明カナレトモ若シ其二箇以上ノ國籍皆外國ノ國籍ナルトキハ如何ニ之ヲ決定スヘキカ例ヘハ佛人

ノ子カ南米ノ出生地主義ヲ採ル國ニ於テ生レタルトキ我國ニ於テ其子ノ國籍ニ付キ爭ヲ生シタルトキハ之ヲ法例第二十七條ニ據リテ決スルコト能ハサルカ如キ是ナリ何トナレハ法例第二十七條第一項ハ國籍取得ノ時ノ前後ニ由ル國籍ノ抵觸ヲ豫想シタル規定ニシテ前例ノ如ク出生ナル唯一ノ事實ニ因リテ同時ニ二箇以上ノ國籍ヲ取得スル場合ニ付テハ何等ノ規定ナケレハナリ「パール」如キハ斯ル抵觸ハ法律上ニ於テモ學理上ニ於テモ到底之ヲ解釋スルコトヲ得サル難問ナリト斷定スト雖モ裁判官ハ何レカノ標準ニ依リテ之ヲ判定セサルヘカラサルコト固ヨリ論ヲ挾タス而シテ此抵觸ハ我國ヨリ言フトキハ之ヲ佛人トスルモ將タ南米人トスルモ毫モ我國ノ國際公益ニ關スルモノニ非ス隨テ血系主義ニ依リテ佛人ト決スヘキカ或ハ出生地主義ニ依リテ南米人ト決スヘキカハ一ニ孰レニ決スルヲ以テ最モ公平ナルカヲ考ヘ然ル後之カ斷案ヲ下ササルヘカラス而シテ此斷案ハ事情ニ從ヒ場合ヲ分チテ之ヲ論定スルヲ可トス

(1) 爭アル二國中ノ一ニ住所ヲ有スルトキ 若シ爭アル二國籍中ノ一方ニ其

當事者カ住所ヲ有スルトキハ當事者自ラ其國籍ニ重キヲ置キテ之ヲ選ビタルモノト看ルコトヲ得ルヲ以テ現ニ住所ヲ有スル國ノ國籍ヲ以テ其當事者ノ本國法ト定ムルコト正當ナリト信ス例ヘハ南米ニ於テ出生シ且引續キ住所ヲ有スル佛人ノ國籍ニ關シ日本ニ於テ爭ヲ生シタルトキハ日本ノ裁判所ハ之ヲ南米人ナリトスルカ如キ是ナリ何トナレハ既ニ其國籍ヲ取得シ住所ヲ所有スル以上ハ其地ニ永住シ其國籍ヲ選擇シタルモノト看做スヲ以テ當事者ノ意思トスヘク且最モ公平ナレハナリ

(2) 國籍ノ抵觸スル孰レノ一方ニモ住所ヲ有セサル場合 此場合ニ於テハ或學者ハ無籍人ト同一視シテ法例第二十七條第二項ニ依リテ住所地法ヲ適用スヘキモノナリト曰ヘリ然レトモ現ニ國籍ヲ有セルノミナラス二箇ノ國籍ヲ有セル者ヲ無籍人ト同一視スルハ不當ナリト謂ハサルヘカラス故ニ斯ル場合ニ二者孰レニ決スヘキカハ他ニ標準ノ據ルヘキモノナキトキハ已ムコトヲ得ス二者ノ中我國ノ立法主義ニ最モ近キ主義ヲ採ル國ノ法律ニ依リテ決スルノ外ナシ前例ノ場合ニ就テ言ヘハ我國ハ血系主義ヲ採レルカ採ニ同一主義ヲ認メタ

ル佛國法ヲ以テ其者ノ國籍ヲ定メ之ヲ佛國人ト看做スヲ至當ナリト信ス
 (B) 國籍ノ變更ニ伴ヒテ發生セル抵觸 一箇人カ國籍ヲ變更シタル場合ニ其結果トシテ二箇ノ國籍ヲ有スルニ至リタルトキハ其二箇ノ國籍中若シ其一カ日本ノ國籍ナルトキハ前述ノ原則ニ依リ其取得ノ前タルト後タルトヲ問ハス我國籍ヲ有セルモノトスヘキナリ(法例第二七條第一項然ルニ若シ其二箇以上ノ國籍カ皆外國ノ國籍ナルトキハ如何ニ之ヲ決定スヘキカノ問題アリ例ヘハ露國人カ獨國ニ歸化シ更ニ其後丁抹ニ一定ノ間住居シタルニ因リ丁抹ノ國籍ヲ取得シタル者アリト假定セシニ露國ノ法律ニテハ脫籍ヲ認メサルヲ以テ猶ホ此者ヲ露國人ト認ムヘタ獨國ヨリ言ヘハ歸化ニ因リ獨國人ト爲リ丁抹ハ丁抹國人ナリト主張スヘシ今此外國人カ我國ニ於テ訴訟ヲ起シ其本國法ヲ定ムル必要アリトセハ如何ナル國ノ國籍ヲ以テ此者ノ本國ト爲スヘキカヲ決セサルヘカラス此場合ニ於テ我法例第二七條ハ時ノ前後ヲ以テ國籍ヲ決定スヘキ標準ヲ設ケ最後ニ取得シタル國籍ヲ以テ其者ノ國籍トシ苟モ最後ニ取得シタル以上ハ其者カ其以前ニ或國籍ヲ取得シタルト喪失シタルトヲ問ハサルナ

リ此規定ハ最モ公平ニシテ又當事者ノ意思ニモ適合スルモノトス何トナレハ今日ニ於テハ移住ノ自由及ヒ脫籍ノ自由ハ國際間ニ一般ニ承認セラレル原則ナルカ故ニ右ノ例ニ於テ露國カ他國ニ歸化シタル者ニ對シ猶ホ露國人ナリト主張スルハ其不當ナルコト明カナリ又其者カ一旦獨國ニ歸化シタリト雖モ再ヒ他國ニ歸化スルコトハ自由ナルヲ以テ苟モ其者カ現ニ他國ニ移住シテ既ニ其國籍ヲ取得シタル以上ハ中間ニ取得シタル獨國ノ國籍ハ我國ニ於テハ之ヲ認ムルノ必要ナキカ故ニ當事者カ最後ニ取得シタル國籍即チ丁抹國籍ヲ以テ本國法ヲ定ムルコト最モ正當ナレハナリ而シテ最後ニ取得シタル國籍トハ最後ノ取得國ノ法律ニ從ヒテ有效ニ取得シタルコトノミヲ謂フハ勿論ナリトス
 乙 消極的國籍ノ抵觸ニ適用スヘキ原則 國籍ノ範圍ニ對シテ消極的國籍ノ抵觸即チ全ク國籍ナキ者ニ付テハ何レノ國ノ法律ヲ以テ其本國法ト看做スヘキカノ問題ヲ生ス嚴格ニ論セハ無籍者ハ元來國籍ヲ有セス即チ其本國ナルモノナキヲ以テ之ニ對シテ其本國法ヲ定メントスルコトハ到底爲シ得ヘカラサルコトナリ然ルニ法律適用ノ必要上ニ於テハ何レカノ國ノ法律

ヲ以テ其本國法ト看做シ之ヲ適用スルノ必要アリ是ニ於テカ種種ノ立法主義ヲ生ス即チ「モンテチグロ」ノ財産法又ハ獨逸ノ民法起草委員「グロ」ノ草案等ニ於テハ斯ル場合ニハ其者ノ屬シタル最後ノ本國法ヲ適用スヘキモノトセリ然ルニ此ノ如キ主義ハ或ハ獨逸ノ如ク外國ニ居住スルコトニ因リテ國籍ヲ喪失セシムル場合ニ於テノミ最後ノ本國カ明カナルヲ以テ之ヲ適用スルコトヲ得ヘシト雖モ元來此場合ニ於テスラ其本國ヨリ言ヘハ既ニ其國籍ヲ失ヒタルモノナリ又其當事者ヨリ言ヘハ舊本國ノ法律ニ從フヨリハ寧ロ其新ニ住居セル土地ノ法律ノ支配ヲ受クルコトヲ豫期セルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ此場合ニ第三國タル例ヘハ我國ニ於テ強ヒテ其舊本國ノ法律ニ依ラシメントスルカ如キハ唯リ其本人ノ意思ニ反スルノミナラス又我國ニ於テ本國法主義ヲ採用シタル立法ノ精神ニモ反スルノ結果ヲ來スモノナリ況ヤ無籍者ト爲リタル者ハ其最後ノ本國ヲ知ルコトヲ得サル場合多數ヲ占ムルニ於テヤ故ニ其最後ノ本國法ニ依ルノ主義ハ到底採用スヘカラサルナリ又或ハ斯ル場合ニハ國籍ヲ有セサルモノトシテ常ニ內國法即チ訴訟地ノ法律ヲ適用スヘ

シト主張スル學者アリ然レトモ縱令其者カ國籍ヲ有セサレハトテ自國ニ住所ヲ有スルト否トヲ問ハスシテ盡ク之ヲ內國人ト同一ニ看做スモ亦其當ヲ得サルコト明カナリ故ニ斯ル消極的抵觸ニ關スル諸國ノ立法例ハ概テ住所地法ヲ以テ其者ノ本國法ニ代用スルコトト爲セリ我法例第二十七條ニ於テモ亦此主義ヲ認メ「國籍ヲ有セサル者ニ付テハ其住所地法ヲ以テ本國法ト看做ス」ト規定リ故ニ斯ル外國人カ我國ニ住所ヲ有スルトキハ我國ノ法律ヲ以テ其者ノ本國法ト看做シ若シ又外國ニ住所ヲ有セハ其住所ヲ有スル國ノ法律ヲ以テ其者ノ本國法ト看做スナリ若シ斯ル無籍人カ何レノ國ニ於テモ住所ヲ有セサル場合ニハ他ニ據ルヘキ基礎ナキヲ以テ已ムコトヲ得ス其者ノ現在ノ場所即チ居所地ノ法律ニ依ルヘキナリ(法例第二十七條第二項)

丙 一國數法ノ場合ニ本國法ヲ定ムヘキ原則

若シ當事者ノ本國ニ於テ統一的ノ法律行ハレスシテ地方ニ依リテ異ナルトキハ何レノ地方ノ法律ヲ以テ其者ノ本國法ト看做スヘキカノ問題ヲ生ス例ヘバ米國又ハ瑞西ノ如キ聯邦ニ於テハ私法上ニ於テハ各聯邦共ニ獨立ノ立法權ヲ

有シ隨テ其法律ヲ異ニス此場合ニ於テハ其當事者ノ本國法ハ果シテ何レノ地方ノ法律ナルカ未タ判然セス斯ル問題ニ付テハ我國ノ舊法例ハ白耳義ノ草案ノ主義ニ從ヒ其者ノ住所地法ニ依ルヘキモノトセリ獨逸ノ學者ニ「マイエル」ノ如キモ亦此說ヲ探レリ「チーテルマン」ノ如キハ一層廣ク之ヲ認メ如何ナル場合ニ於テモ其者ノ住所地法ニ依ルヘキモノト論セリ然レトモ他國ニ住所ヲ有セル場合ニ於テモ仍ホ其住所地法ニ依リ其國ノ法律ヲ以テ本國法ト看做スカ如キハ甚タ理由ナキコトニシテ本國法ヲ認ムルノ精神ニ反スルノ結果ヲ來スヘシ故ニ我現行法例ニ於テハ孰レノ場合ニ於テモ其適用セラルヘキ法律ハ其者ノ本國ニ行ハルル法律中ノ何レカ其一ナラサルヘカラストノ主義ヲ採リ斯ル者ニ付テハ其者ノ屬セル地方ノ法律ニ依ルヘキモノト規定セリ(法例第二七條第三項)唯茲ニ注意スヘキハ其者カ其本國ノ何レノ地方ニ屬セル者ナルカハ我國ノ法律ニ於テ決定スヘキ事項ニ非スシテ其本國法律ノ規定ニ依リテ之ヲ決定スヘキモノナルコト是ナリ

第六章 住所

現今文明諸國ノ私法上ニ於ケル住所ノ法理ハ皆羅馬法ノ原則ニ從ヒテ二箇ノ條件ヲ要スルモノトセリ即チ意思及ヒ一定ノ事實是ナリ詳ク言ヘハ一定ノ土地ニ於テ生計ヲ營ムノ事實ト其地ヲ生計ノ中心トシテ永住スルノ意思トヲ要スルモノナリ住所ノ性質ニ付テハ各國概テ一定セル所ナルモ此原則ノ適用ニ至リテハ大ニ異ナルモノアリ殊ニ英米法系ノ諸國ニ於テハ法律適用ノ基礎ヲ國籍ニ置カスシテ住所ニ置タカ故ニ此等ノ諸國ニ於テハ住所ナルモノハ頗ル重要ナルモノナリ且英米人ハ他國ノ國民ヨリモ外國ニ長ク居留スル者多キカ故ニ住所ニ關スル觀念及ヒ之ヲ研究スルノ必要他ノ諸國ニ比シテ一層重大ナルヲ以テ英米ノ法學者ハ頗ル精密ナル研究ヲ爲セリ今簡單ニ住所ニ關スル英米法ノ原則ヲ説明セン

- 第一 總テノ人ハ必ス住所ヲ有セサルヘカラス
- 第二 其住所ハ唯一ナラサルヘカラス即チ何人モ同時ニ二箇以上ノ住所ヲ有

スルコトヲ得ス

第三 一タヒ取得シタル住所ハ他ニ新住所ヲ取得スルニ非サレハ之ヲ失フコトナシ

第四 獨立ノ者即チ完全ナル能力ヲ有スル者ノミ自由ニ住所ヲ選定スルコトヲ得

以上ノ四原則ヲ基礎トシテ英米ノ學說ニ於テハ住所トハ人カ永久の生活ヲ營ム場所ナリト説明シ且住所ヲ三ニ區分シテ第一生來ノ住所即チ人カ出生ノ當時ニ取得セル住所例ヘハ嫡出子ハ父ノ住所私生子ハ母ノ住所ヲ取得スルカ如シ(第二法定住所即チ法律ヲ以テ住所ヲ定メタル場合例ヘハ未成年ノ子ハ父又ハ母ノ住所妻ハ夫ノ住所禁治產者及ヒ官吏ノ住所等ノ如シ)第三選定住所即チ獨立ノ者カ永住ノ意思ヲ以テ自由ニ選定シタルモノノ三種ト爲ス
此三種中所謂生來ノ住所ハ第二種ノ住所ト異ナルモノニ非スシテ法定住所ノ最モ重要ナルモノナルヲ以テ畢竟住所ハ任意ノ住所及ヒ法律ノ規定又ハ推定ニ依ル住所ノ二ニ過キス我國及ヒ歐洲諸國ニ於テモ此二種ノ住所アルノミナ

我民法ノ主義ニ依レハ住所ハ各人ノ生活ノ本據ナルヲ以テ住所ハ唯一ニシテ同時ニ二箇ノ住所ヲ有スルコトヲ得サルカ如ク見ユ獨逸法系ノ諸國ニ於テハ我國ト同シク生活ノ本據ヲ以テ住所ト爲スモ仍ホ一人ニシテ同時ニ二箇以上ノ住所ヲ有スルコトヲ認メタリ此ノ如ク住所ノ觀念ニ付テ諸國ノ立法主義必スシモ同一ナラサルヲ以テ住所ニ對シテモ亦相抵觸スル場合ヲ生ス加之住所ヲ選ヒタル場合ニ於テ果シテ住所ノ要件ヲ充タセルヤ否ヤハ一ノ事實問題ニシテ甲國ノ裁判官カ住所ト判定スル所ハ乙國ノ裁判官ハ之ヲ認メテ住所ト爲ササルコトアリ殊ニ英米主義ノ如ク如何ナル場合ニ於テモ人ハ必ス住所ヲ有セルモノトシ且新ニ住所ヲ取得セサル限ハ本來ノ住所ヲ失フコトナシトセル國ノ人民カ若シ我國ニ住所ヲ有セルニ由リ我國ニ於テハ住所ヲ有スル者ト認ムルニ拘ハラス其本國ニ於テハ我國ニ滞在セル事實ハ住所ヲ取得スルニ足ラサルモノト認メ其本國ヲ居住地ナリト主張スルコトアリ此ノ如キ場合ニハ住所ニ關シ積極的抵觸ヲ生ス

此問題ニ付テハ國籍ノ抵觸ニ關スル問題ト同一ニ取扱ハルルモノニシテ法例第二十八條第二項ニ於テ同法第二十七條ヲ準用スヘキコトヲ規定セリ即チ若シ當事者ノ有セル二箇以上ノ住所中其一カ日本ニ在ルトキハ常ニ我國ノ住所ヲ以テ其者ノ住所ト定メ之ニ依リテ適用スヘキ法律ヲ定ムヘキモノトス若シ其當事者カ有セル二箇以上ノ住所カ皆外國ニ在ルトキハ之ヲ如何ニ判定スルカト云フニ此場合ニハ最後ニ取得シタル住所ヲ以テ標準ト爲スヘキモノナリ然ルニ獨逸ノ二三ノ學說ニ依レハ斯ル場合ニハ舊住所ニ依ルヘキモノトセリ其理由トスル所ハ先ツ第一ニ取得シタル住所ノ法律ニ從ヒテ其者カ猶ホ住所ヲ繼續スル限ハ他ニ新ナル住所ヲ取得シタル場合ニ於テモ仍ホ其效力ヲ及ホスヘキモノナルヲ以テ若シ從來ノ法律ニ從ヒテ新ナル住所ノ取得カ認めラレタル限ハ後ノ住所ハ未タ存在セザルモノナルカ故ニ第一ノ住所ニ依ルヘキモノナリト云フニ在リ(ニーマイエルニ「チーデルマン」等是レ其當ヲ得サルモノナリ蓋シ住居及ヒ移轉ノ自由ハ今日諸國ノ憲法ノ認ムル所ニシテ又國外ニ移住スルノ自由モ國際間ニ認めラルル所ナリ既ニ國籍ヲ變更スルノ自由ヲ認

雜 報

○先取特權ノ物上代位ノ效力 一先取特權ハ其目的物ノ賣却、質貸滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得ルコトハ民法第三百四條第一項ノ明カニ規定セル所ニシテ之ニ依リテ狡黠ナル債務者ノ詐害行爲ヲ防キ以テ先取特權ノ本旨ヲ貫徹スルコトヲ得セシメタリ然リト雖モ此規定ヲ絕對ニ適用スルモノトセハ他ノ一般ノ債權者ヲ害スルコト大ナルヘキヲ慮リ同條但書ヲ以テ先取特權者カ右ノ權利ヲ行ハンニハ金錢其他ノ物ヲ債務者又ハ第三者ニ拂渡又ハ引渡ヲ爲ス前ニ於テ差押ヲ爲スコトヲ要スルモノトセリ(民法第一七七條第三三三條參看此規定ニ關スル實際問題ニ付キ破産管財人カ適法ノ手續即チ競賣ニ依リテ先取特權ノ目的物ヲ賣却シタル場合ニ於テ先取特權者カ其代價ノ差押ヲ爲スコトナクシテ換價手續ノ終了後ニ至リテモ仍ホ先取特權存在スルモノノ如ク認メタル函館控訴院ノ判決ヲ破毀シタル大審院ノ判決理由ニ曰ク抑先取特權ハ目的物ノ上ニ存スル權利ニ

シテ就中本件ノ如ク動産ノ上ニ存スルモノハ目的物ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付先取特權ヲ行フヲ得サルコトハ民法第三百三十三條ニ於テ明カニ規定スル所ナリ然リ而シテ先取特權ノ性質タルハ唯目的物ノ上ニ存在スルニ過キサルノミナラス其目的物第三取得者ノ占有ニ歸シタル後ハ之ヲ行フ能ハサルコト上述ノ如クナリトセハ純理ヲ以テ之ヲ言ヘハ此場合ニ於テ先取特權ハ業已ニ消滅シタルモノト斷定セサルヲ得然レハ則チ民法第三百四條ノ規定即チ先取特權ヲ目的物ノ對價ニ對シテ行フコトヲ得トノ規定ハ特ニ法律ノ明文ヲ待テ而シテ後始メテ然ルコトヲ得ルニ過キス乃チ其先取特權當然ノ作用ニ非サルコト誠ニ明ニシテ其對價ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要スル所以ノ理由實ニ此ニ在リト云フヘシ先取特權ノ性質既ニ此ノ如クナリトセハ若シ先取特權者目的物ノ對價ニ對シテ之ヲ行ハント欲スレハ必スヤ其拂渡又ハ引渡前ニ於テ差押ヲ爲スヲ要スルコトハ債務者カ目的物ヲ賣渡シタル場合ト破産管財人カ適法ノ手續ニ依リテ換價ヲ爲シタル場合トニ因リテ消長スルノ理アル可ラス何トナレハ破産管財人ハ其任務ノ一トシテ破産財

團ニ對スル總債權者ニ共通ナル利益ニ付テ之ヲ代表スルコトアルニ過キスシテ各債權者ノ特殊ナル利益ニ付テ代表スル者ニ非サレハナリト(大審院明治三十五年七月三日第一民事部判決)

○戸主ノ死亡ニ因ル家督相續ノ舊慣 現行民法ノ規定ニ依レハ戸主ノ死亡ト同時ニ家督相續開始シ法定ノ推定家督相續人ハ其時ヨリ前戸主ノ有セシ一身上ノ專屬權以外ノ權利義務ヲ當然承繼スルノ效力ヲ生ス而シテ此效力ハ胎兒ニマテ及フモノトス(民法第九六四條第九八六條第九八八條)然ルニ民法施行前ニ於テハ相續人ノ幼少ナル場合ニ付キ之ト異ナリタル慣習法ノ行ハレタルコトハ大審院ノ認定セラルル所ナリ今其判決要旨ヲ示サンニ曰ク「戸主死去スレハ其相續人タルヘキ者ハ直ニ家督ヲ相續スルハ普通ノ順序ナルモ從來家督相續人タルヘキ者幼少ナル場合ニハ一家維持ノ必要上ヨリシテ親族協議ノ上相當ノ丁年者ヲ選ミ其筋ノ許可ヲ得テ家督相續人タラシムル」士族平民ノ間ニ行ハレタル慣習ナリシコトハ原判決ニ説明スル所ノ如クナレハ家督相續人ノ幼少ナル場合ハ普通ノ場合ト異ナリ其相續ハ被相續人ノ死亡ト同時ニ開始

スルモ其相續人ハ親族協議後マテ確定セス隨フテ幼者ハ其遺産ノ所有權ヲ取得シ能ハサリシモノト見做ササルヘカラス何トナレハ若シ上告論旨ノ如ク幼者カ戸主ノ死亡ト同時ニ其家督ヲ相續スルモノトスルトキハ爾後之ヲ排除スルニハ隱居セシムルノ外ナキ筋合ナルモ從來ノ取扱順序ニ徴スレハ幼者ヲ隱居セシムルノ趣旨ニアラシテ之ヲ廢嫡スルノ精神ナリシヨト明カナレハナリト(大審院明治三十五年(子)第六十八號七月七日第二民事部判決)

○假差押申請ノ要件 ○假差押申請ノ要件ハ民事訴訟法第七百四十條ニ規定セル所ナリ此申請ニハ請求ノ原因ヲ表示スルコトヲ要スルヤ否ヤニ付キ大審院ハ之ヲ否定シテ曰ク「假差押ノ申請ニ付テハ本案請求ノ趣旨ヲ表示スルヲ以テ足り請求ノ原因ハ之ヲ開示スルヲ要セス即チ請求ノ原因ヲ示スハ假差押申請ノ要件ニアラス故ニ本案ノ管轄裁判所ハ請求ノ原因如何ニ論ナク假差押申請ノ手續ニ缺タル所ナキ申請ハ之ヲ受理審判セサルヘカラス」ト(大審院明治三十五年(子)第七百三十三號有體動産假差押ニ關スル民事部判決)

稟 告

一 本校校長富井博士辭任ニ付キ梅博士校長ニ就任セラレ

一 三十五年度講義録ハ明年一月ヲ以テ全部完結スヘキヲ

以テ全部校外生ハ同月マテ月謝ヲ納付セラルヘシ(一月末

ニ至リ號外ヲ發行スルコトアルモ更ニ月謝ヲ徵收セス)

十 月

和佛法律學校

スルモ其相續人ハ親族協議後マテ確定セス隨フテ幼者ハ其遺產ノ所有權ヲ取得シ能ハサリシモノト見做ササルヘカラス何トナレハ若シ上告論旨ノ如ク幼者カ戸主ノ死亡ト同時ニ其家督ヲ相續スルモノトスルトキハ爾後之ヲ排除スルニハ隱居セシムルノ外ナキ筋合ナルモ從來ノ取扱順序ニ徴スレハ幼者ヲ隱居セシムルノ趣旨ニアラシテ之ヲ廢嫡スルノ精神ナリシコト明カナレハナリ

(大審院明治三十五年(第百八十六號)所存名義書特登)
ト(大審院明治三十五年(第百八十六號)所存名義書特登)

○假差押申請ノ要件 假差押申請ノ要件ハ民事訴訟法第七百四十條ニ規定セル所ナリ此申請ニハ請求ノ原因ヲ表示スルコトヲ要スルヤ否ヤニ付キ大審院ハ之ヲ否定シテ曰ク假差押ノ申請ニ付テハ本案請求ノ趣旨ヲ表示スルヲ以テ足り請求ノ原因ハ之ヲ開示スルヲ要セス即チ請求ノ原因ヲ示スハ假差押申請ノ要件ニアラス故ニ本案ノ管轄裁判所ハ請求ノ原因如何ニ論ナク假差押申請ノ手續ニ缺タル所ナキ申請ハ之ヲ受理審判セサルヘカラスト(大審院明治三十五年(第百三十三號)有體勳座假差押ニ對スル民事部判決)

稟告

一 本校校長富井博士辭任ニ付キ梅博士校長ニ就任セラレタリ

一 三十五年度講義錄ハ明年一月ヲ以テ全部完結スヘキヲ以テ全部校外生ハ同月マテ月謝ヲ納付セラルヘシ(一月末ニ至リ號外ヲ發行スルコトアルモ更ニ月謝ヲ徵收セス)

十月

和佛法律學校

法學志林

每月一回十五日發行
一冊特價郵稅共金九錢
十冊前金郵稅共八十錢

第三十六號

十月十五日發行

志林

○最近判例批評 法學博士 梅 謙次郎
○私法ノ研究ト社會法 法學士 志田御太郎
○賭博罪ニ就テ 法學士 古賀廉造
○取引所(種) 海山獵夫

纂論

○第一買權者ノ權利 法學博士 富井政章
○法定代理人ノ爲シタル控訴ト被告人ノ處分權 法學士 豊島直通

解疑

○「タニユー」何委員會ノ成立組織及ヒ國際法上ノ地位 法學士 秋山雅之介
○親族編、相續編ニ依ル權利ト和解 法學士 吾孫子 勝

寄書

○非常大權ノ行動ヲ論ス 法學博士 梅 謙次郎
校 友 神居繁太郎

其他

判例、雜報、記事 數十件

發行所 和佛法律學校

明治三十五年十月廿九日印刷
明治三十五年十月三十日發行

(定價金拾錢)

編輯兼 發行所 松田久次郎
東京市京橋區南船場町二十七番地

印刷者 小宮山信好
東京市牛込區矢來町三番地

印刷所 金子活版所
東京市板橋區西久保明舟町十一番地

發行所 司法省 和佛法律學校
東京市總町區富士見町六丁目十六番地
指定 (電話番町百七十四番)

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可 每月一回十五日三十日發行